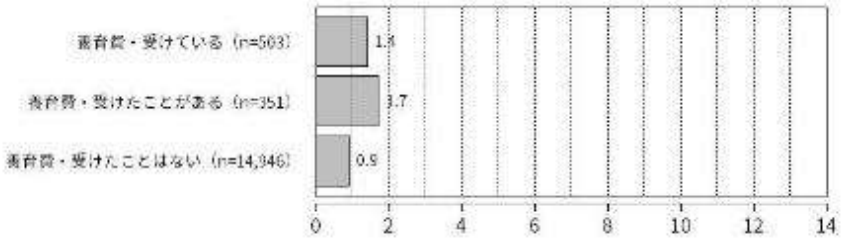
養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 30(3)⑨ × 保護者票問 13)

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

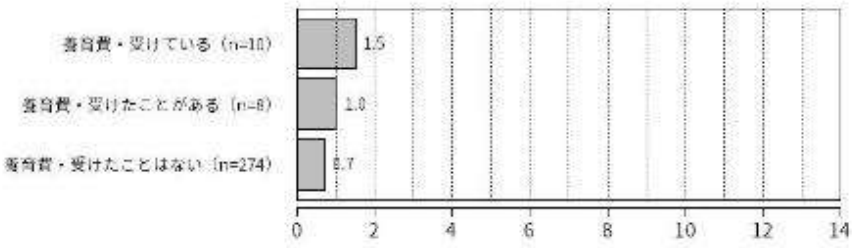
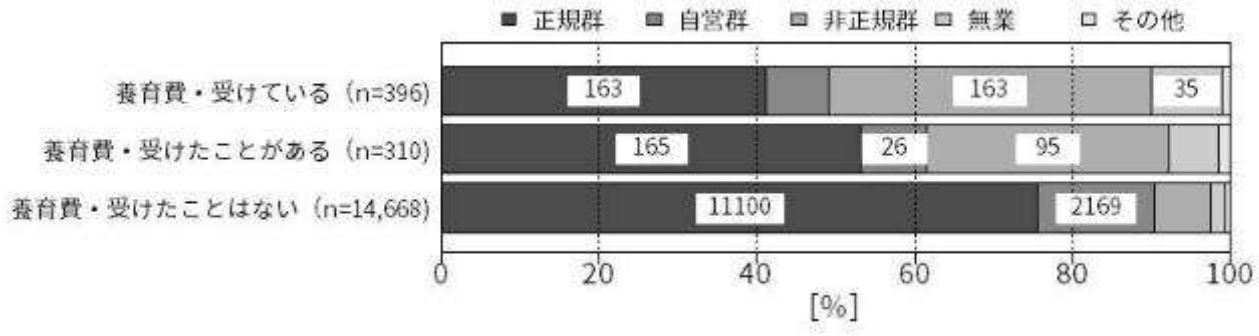


図 154. 養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている・受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均はそれぞれ 1.5 個、1.0 個であった。

養育費の受給別に見た、就労状況（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

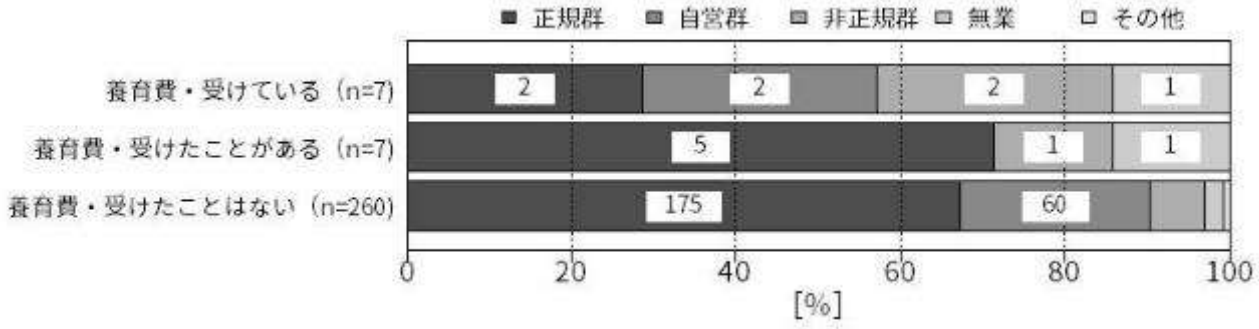
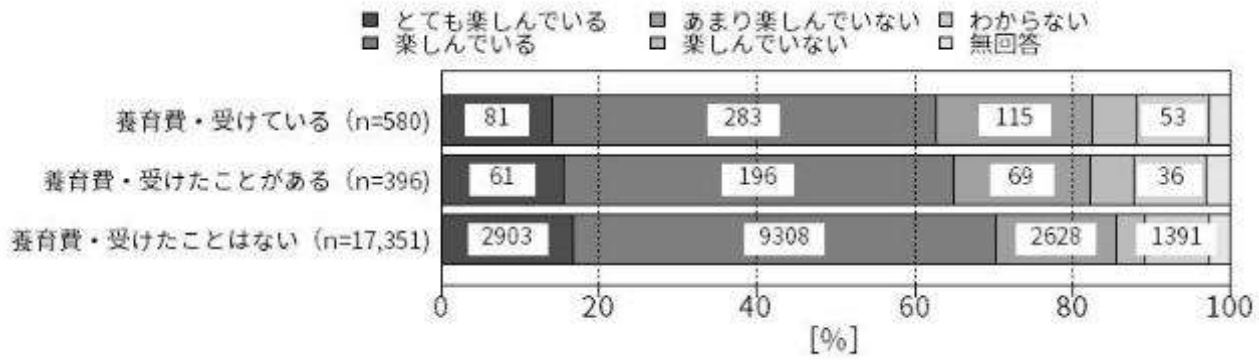


図 155. 養育費の受給別に見た、就労状況

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯は 7 人しかおらず、養育費の受給別に就労状況について述べることはできない。「非正規群」が 28.6%、「無業」が 14.3%、養育費を受けたことがない世帯では 6.5%、2.3%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

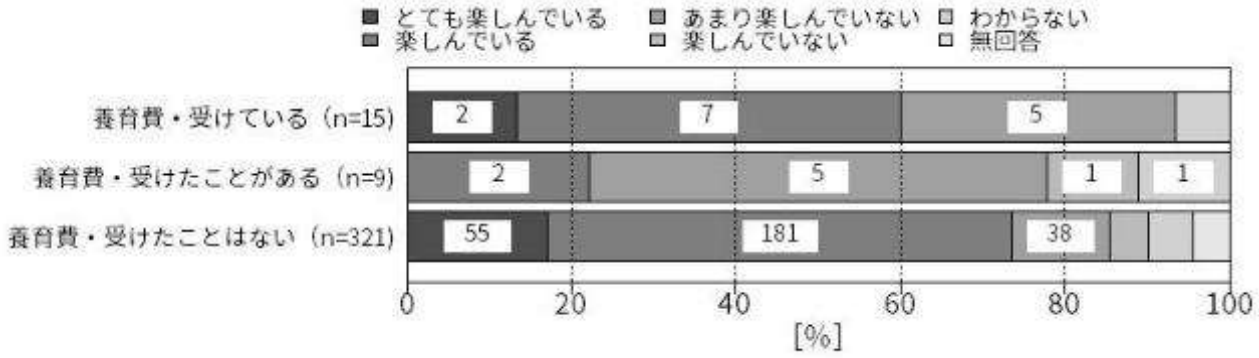
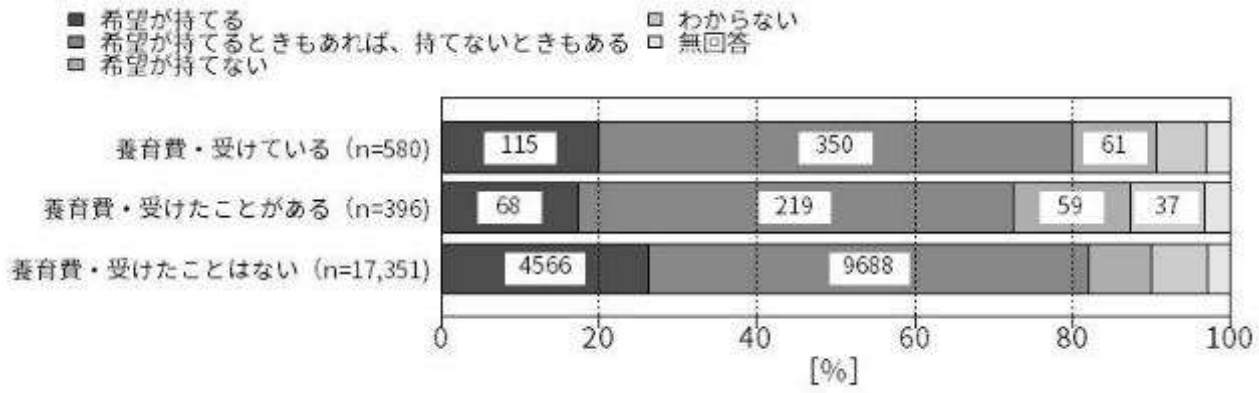


図 156. 養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「楽しんでいない」が該当なし、養育費を受けたことはない世帯では 4.7%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

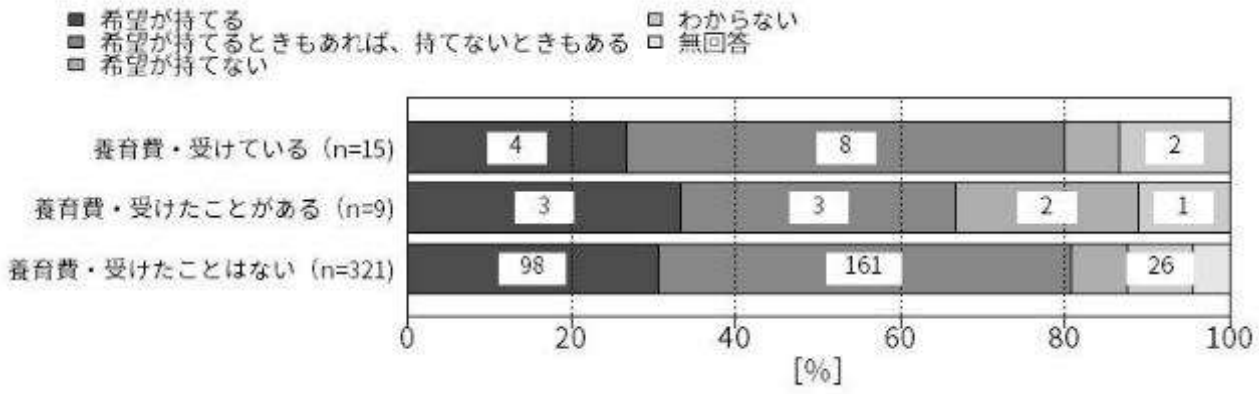
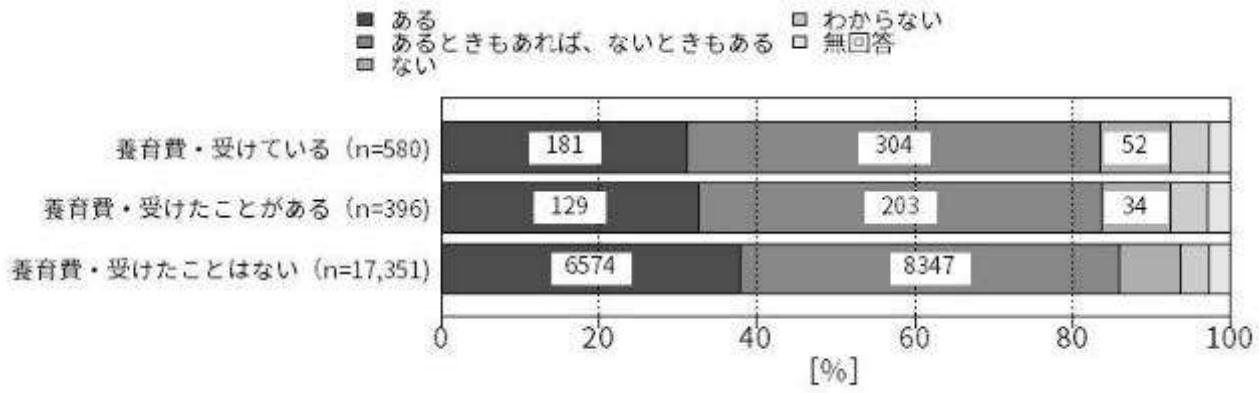


図 157. 養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「希望が持てない」が 6.7%、養育費を受けたことはない世帯では 6.9%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

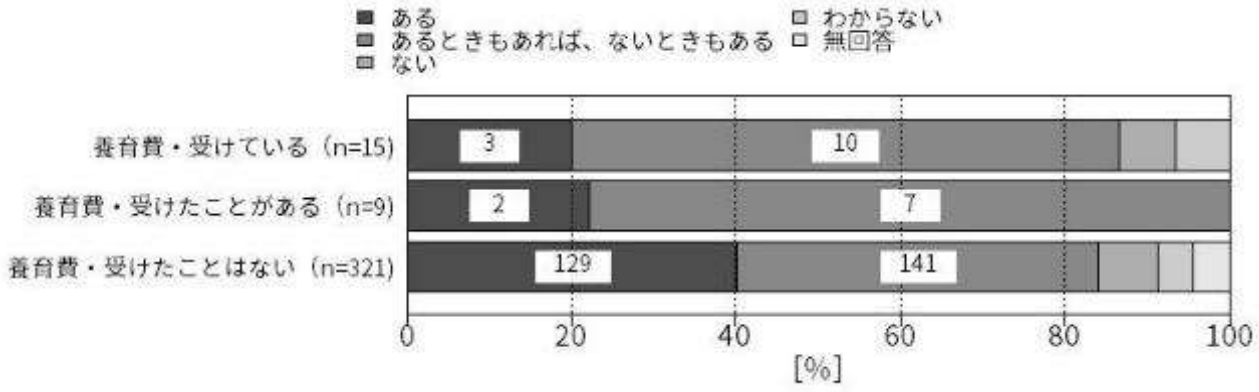
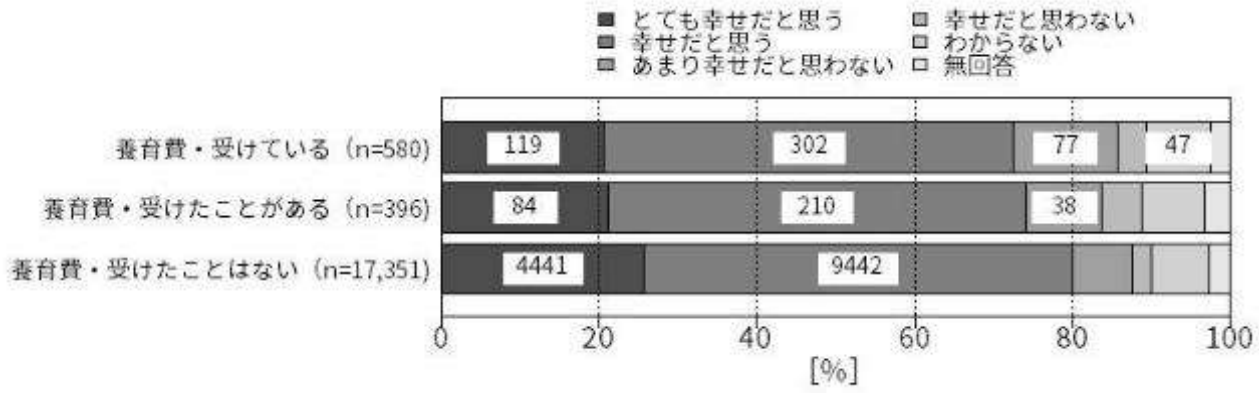


図 158. 養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「ない」が 6.7%、養育費を受けたことはない世帯では 7.2%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

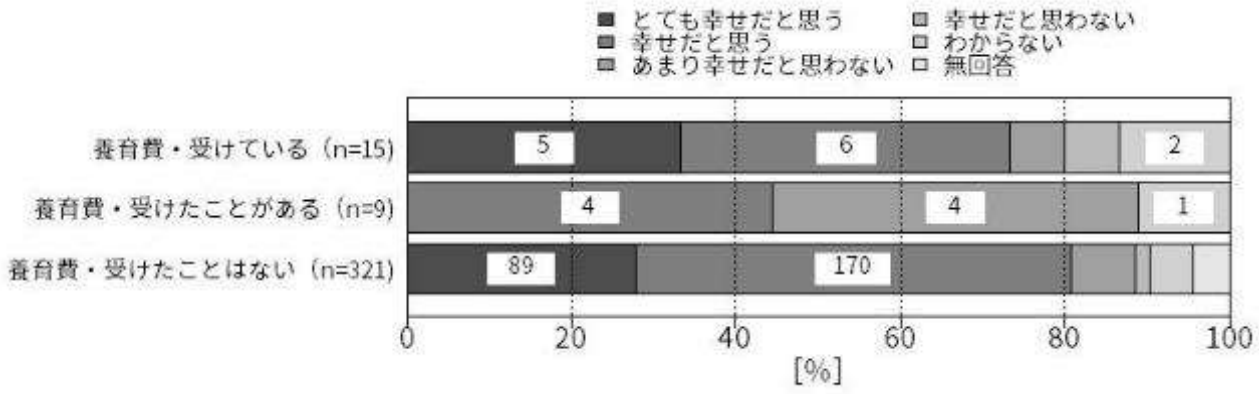
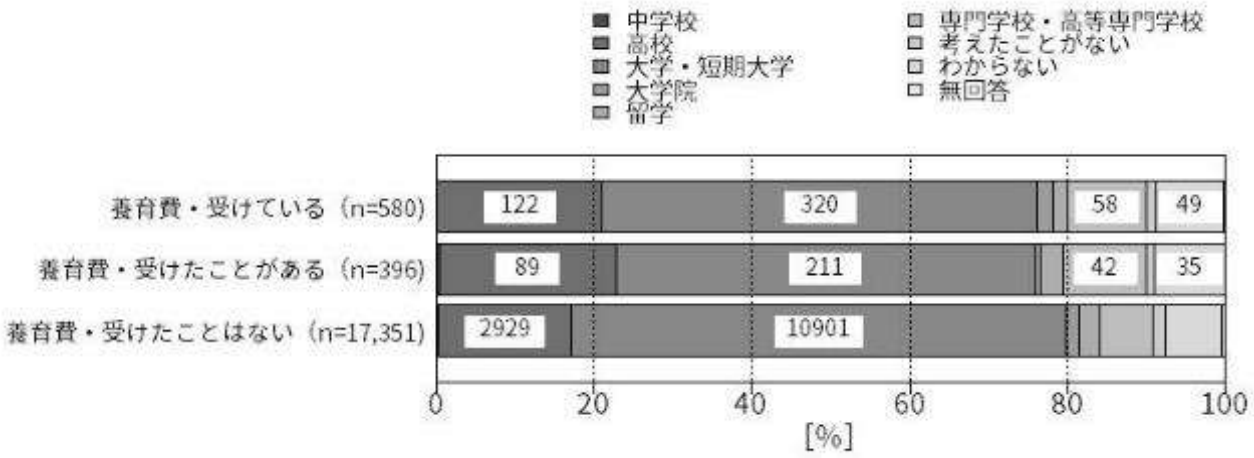


図 159. 養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「幸せだと思わない」が 6.7%、養育費を受けたことはない世帯では 1.9%であった。

養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

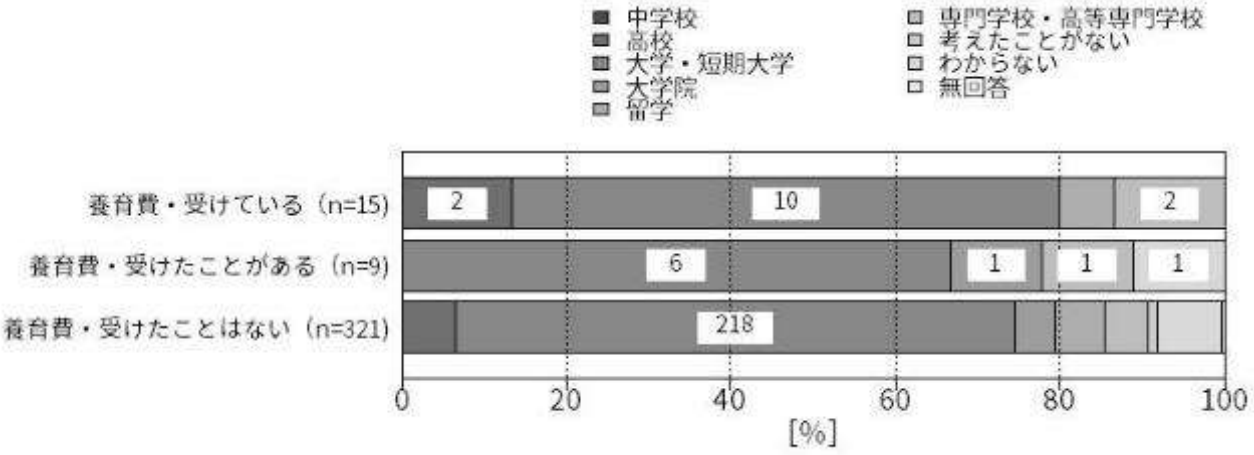
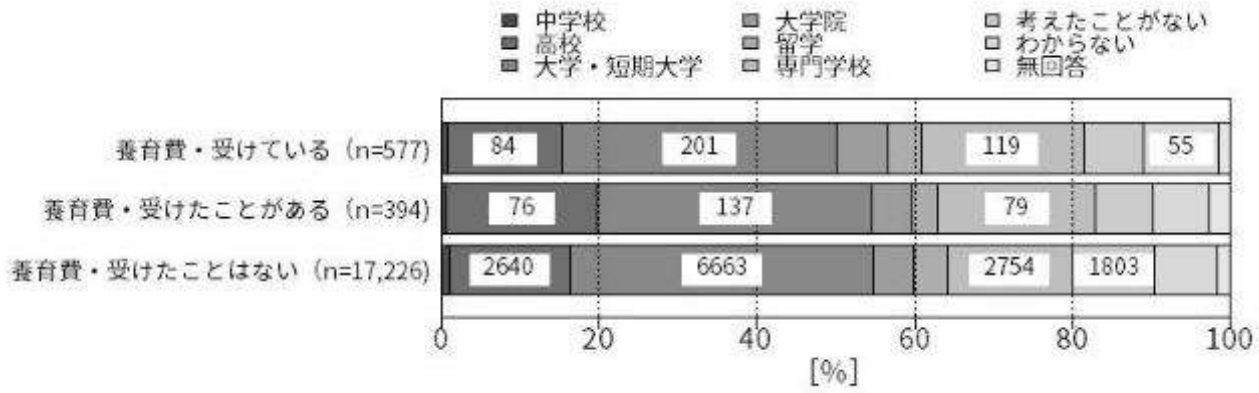


図 160. 養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 66.7%、養育費を受けたことはない世帯では 67.9%であった。

養育費の受給別に見た、希望する進学先（保護者票　問 30(3)⑨ × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

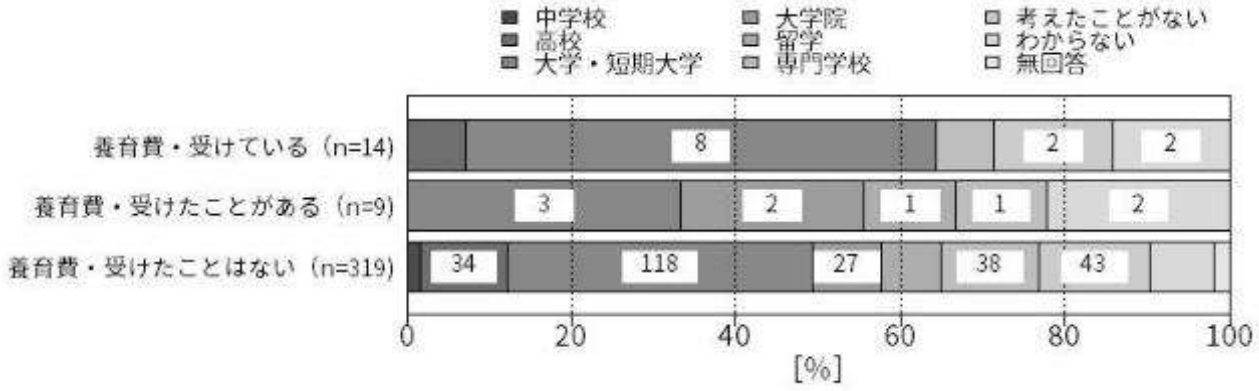
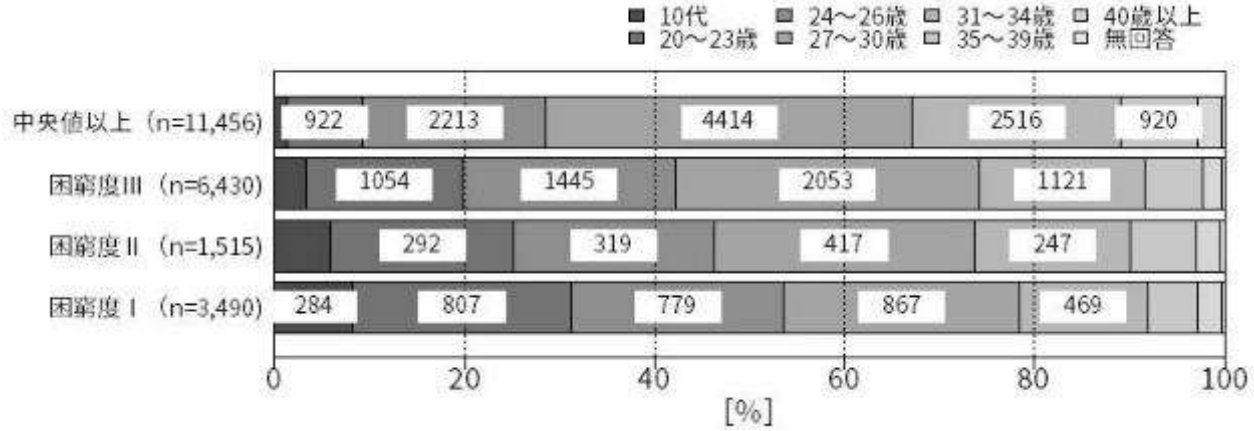


図 161. 養育費の受給別に見た、希望する進学先

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 57.1%、養育費を受けたことはない世帯では 37.0%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票　問 22）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

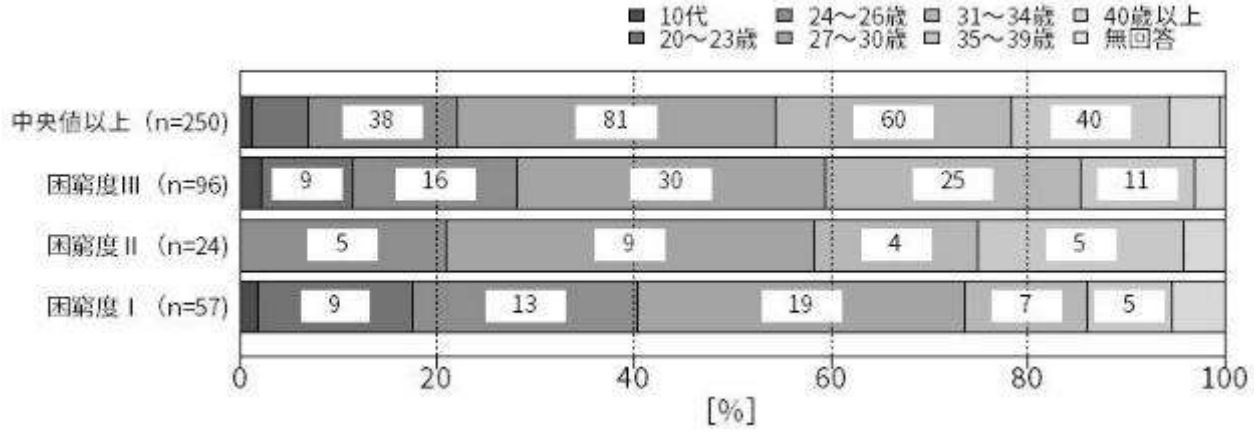
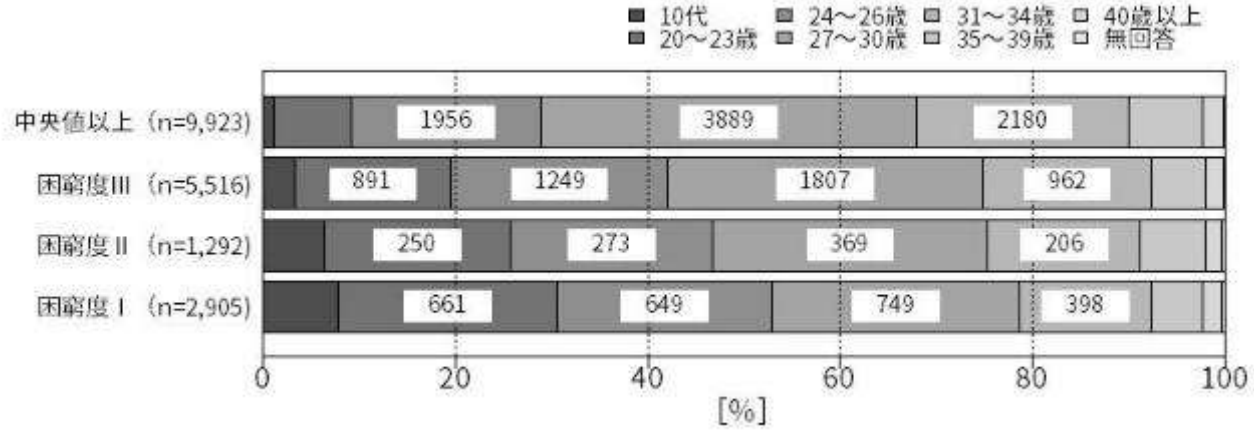


図 162. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で 10 代で初めて親となったと答えた割合は 1.8%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票　問 22） ※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

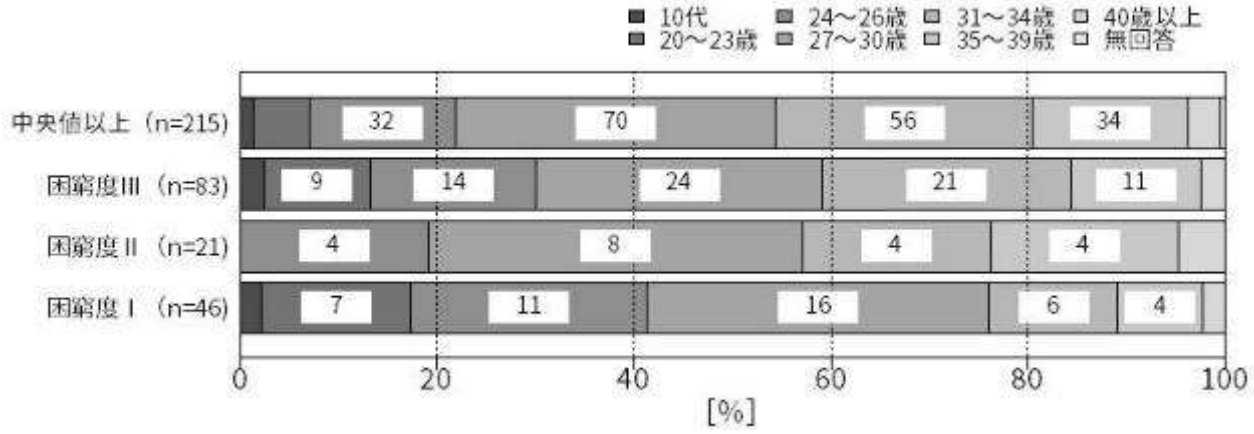
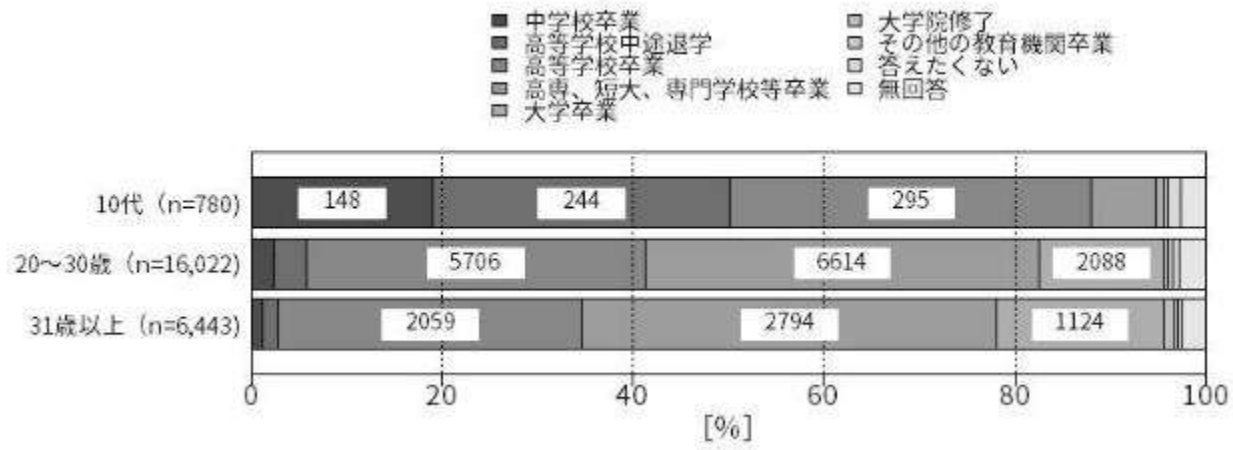


図 163. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度 I 群で 10 代で初めて親となったと答えた割合は 2.2%であった。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴（保護者票　問 22 × 保護者票　問 8）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

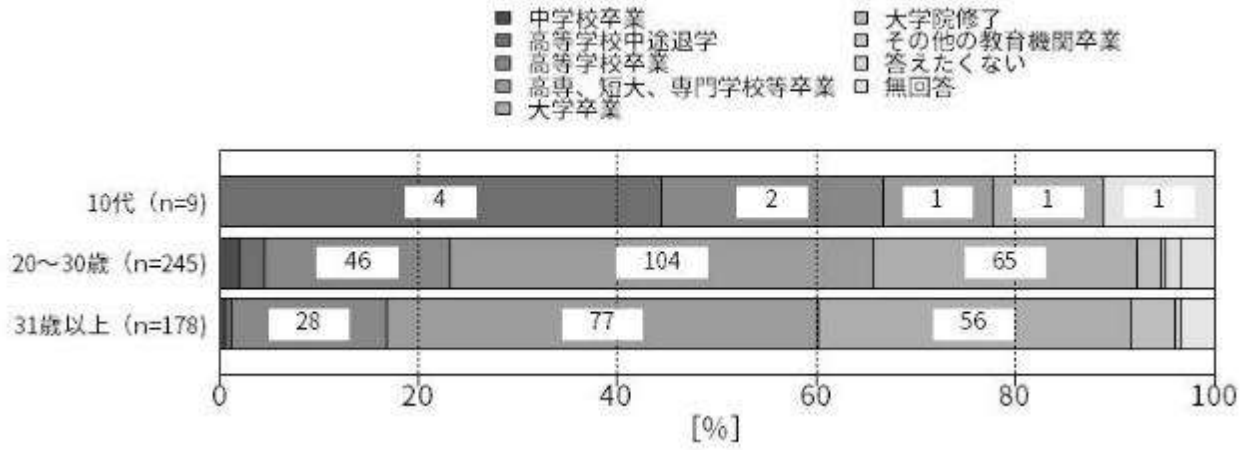


図 164. 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴
※母親が回答者の場合に限定

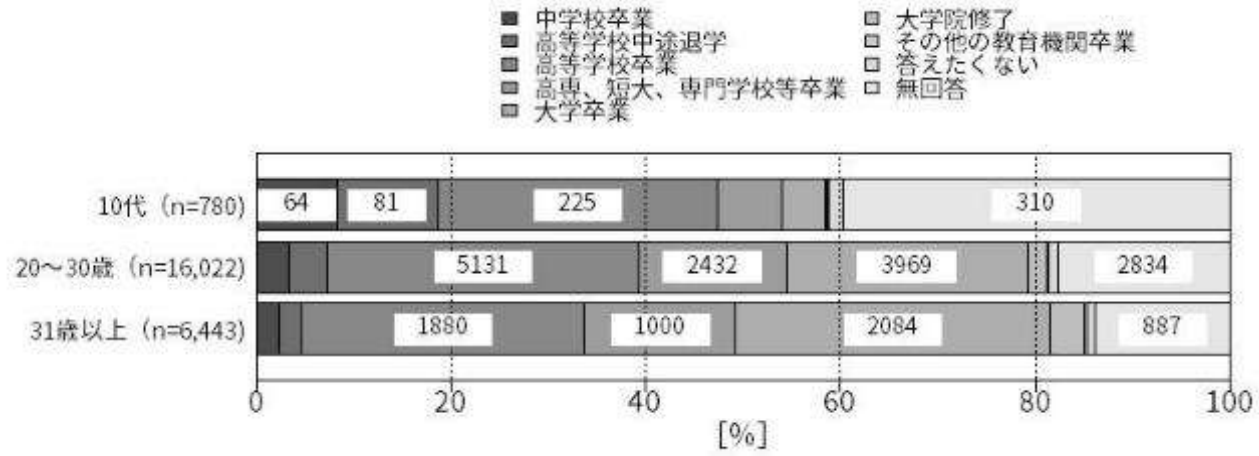
「初めて親となった年齢」を基準に、10 代で初めて親となった 10 代群、平均出産年齢以下の年齢で初めて親となった平均以下群（20～30 歳）、平均出産年齢以上の年齢で初めて親となった平均以上群（31 歳以上）を設けた（平均出産年齢については下記 URL を参照）。

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に母親自身の最終学歴を見ると、10 代群において「中学校卒業」と答えた割合は 0%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は 44.4%であった。

平均出産年齢：
http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2013/25webhonpen/html/b1_s1-1.html

初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴（保護者票　問 22 × 保護者票　問 8）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

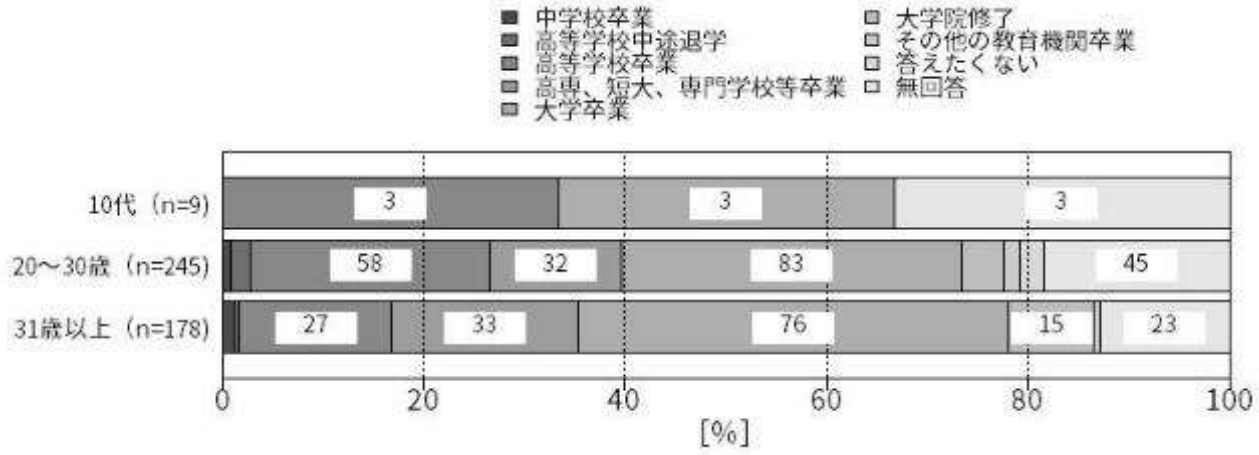
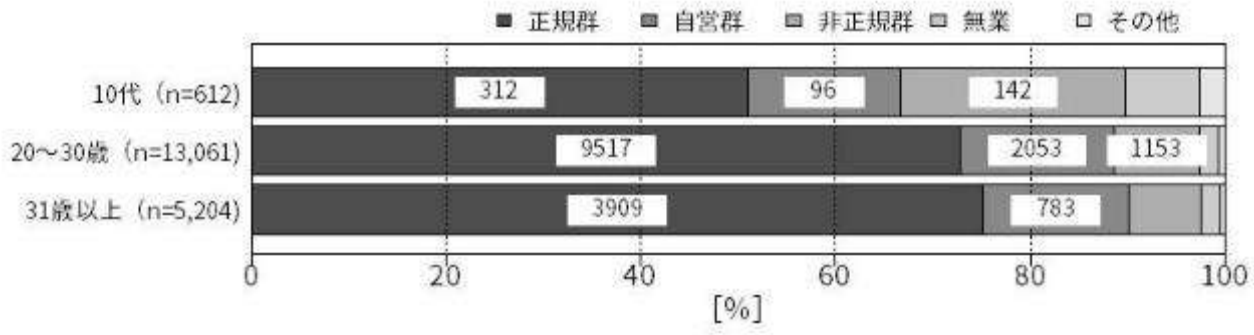


図 165. 初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に父親の最終学歴を見ると、10 代群において「中学校卒業」、「高等学校中途退学」の該当者はいなかった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票　問 22 × 保護者票　就労状況）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

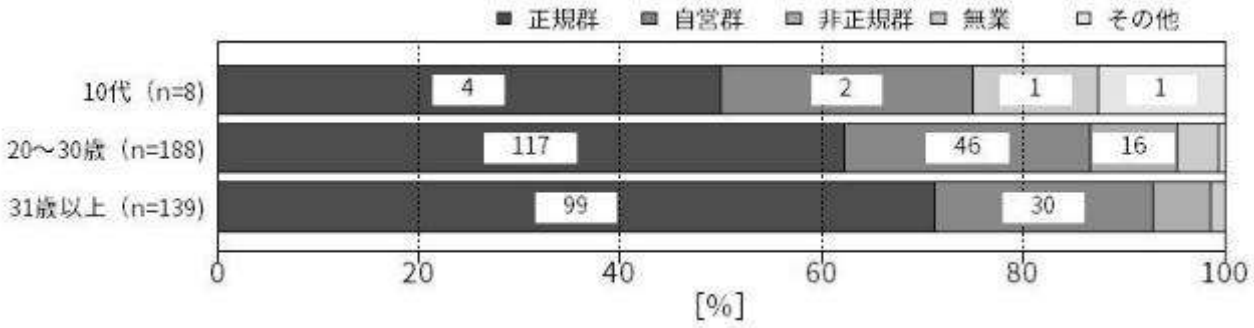
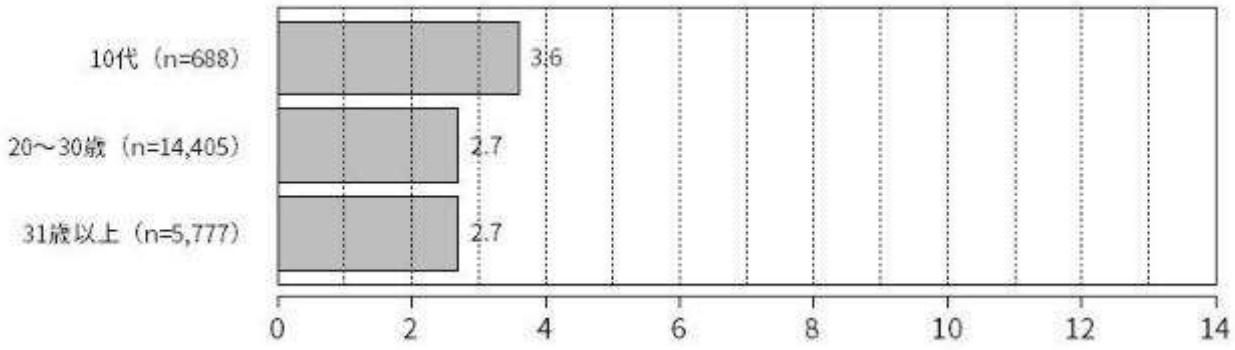


図 166. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に就労状況を見ると、10 代群は「正規群」が 50.0%、「非正規群」は該当者がいなかった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
（保護者票　問 22 × 保護者票　問 26）　※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

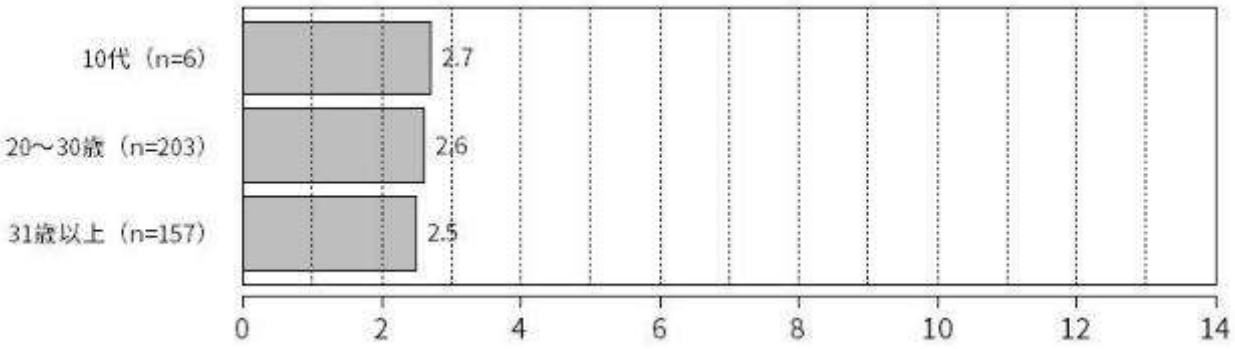
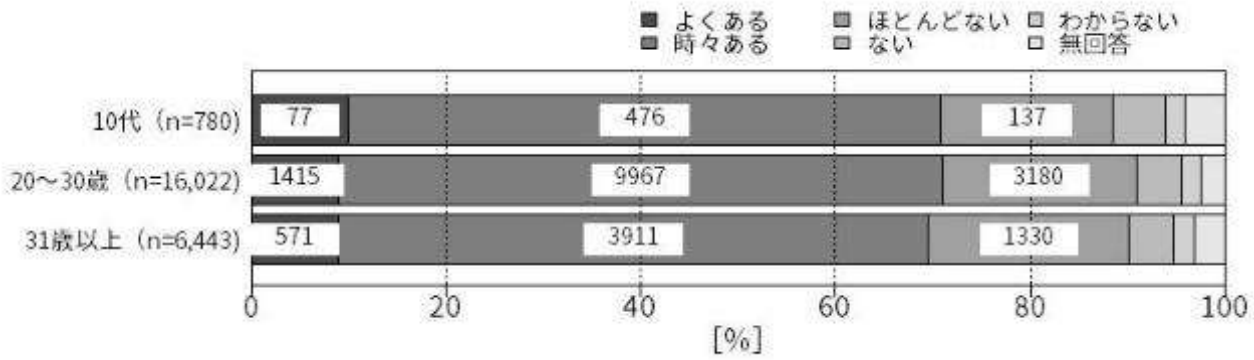


図 167. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10 代群は 2.7 個であった。

初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
（保護者票　問 22 × 保護者票　問 27）　※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

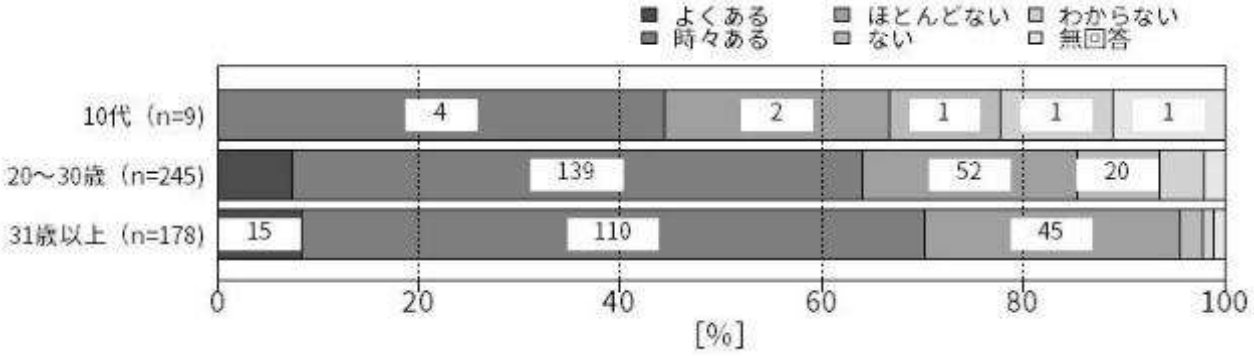
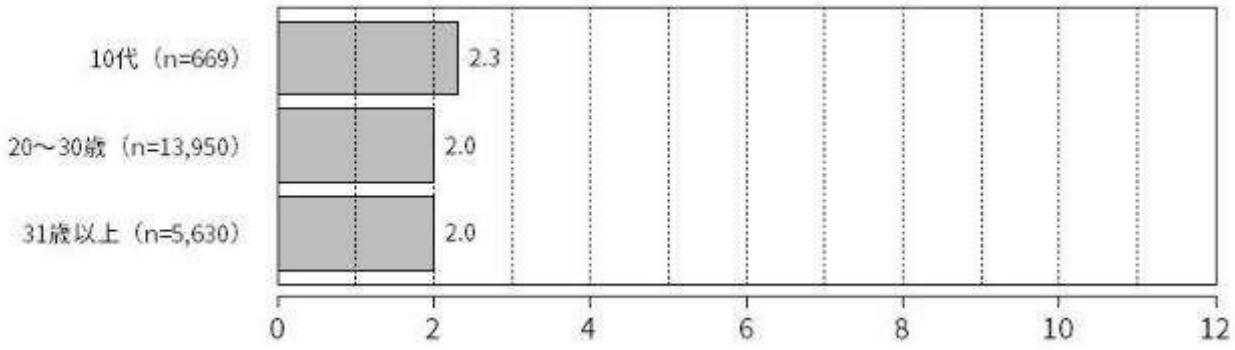


図 168. 初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、10 代群は、「よくある」と回答した該当者はいなかった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
（保護者票　問 22 × 子ども票　問 24）　※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

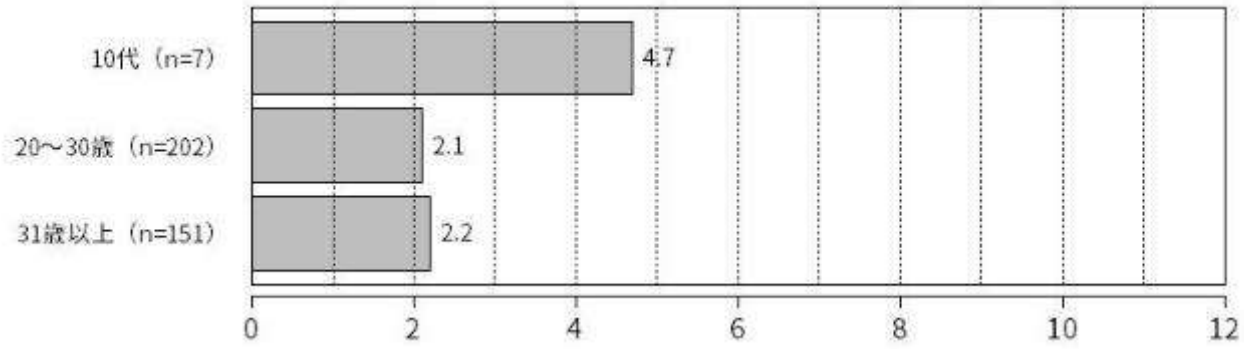
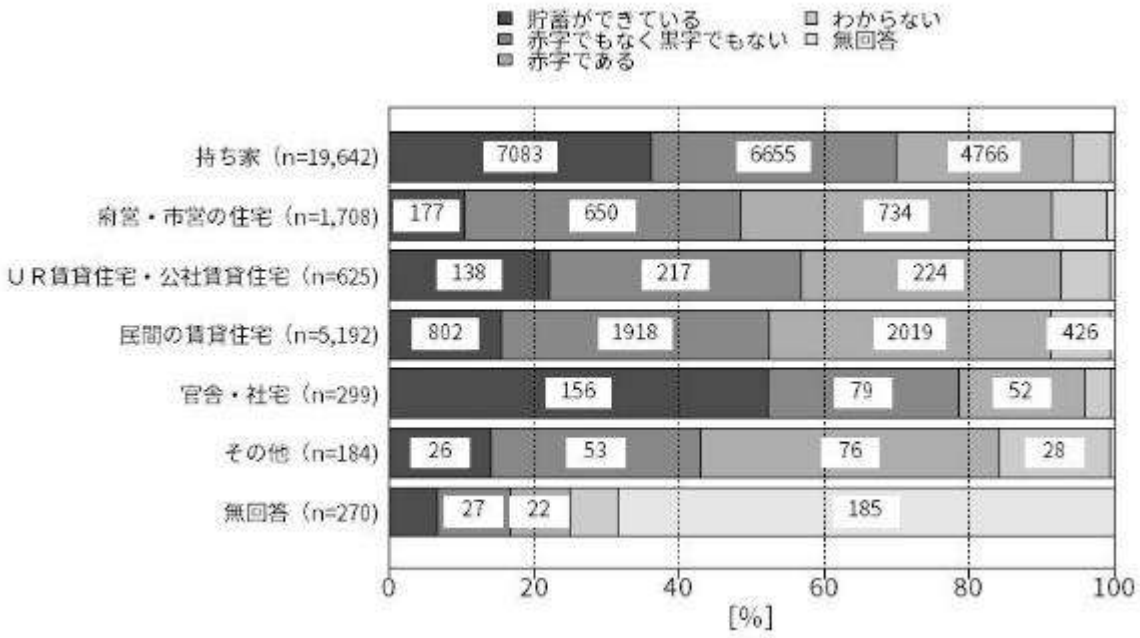


図 169. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10 代群では 4.7 個であった。

住居別に見た、家計状況（保護者票　問 4 × 保護者票　問 6(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

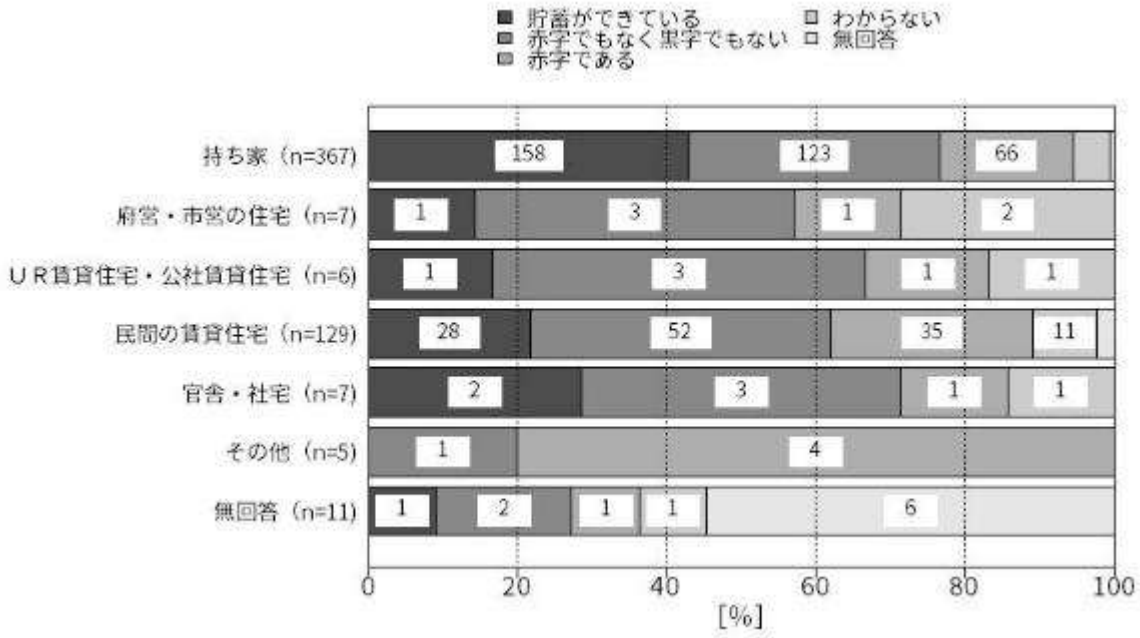
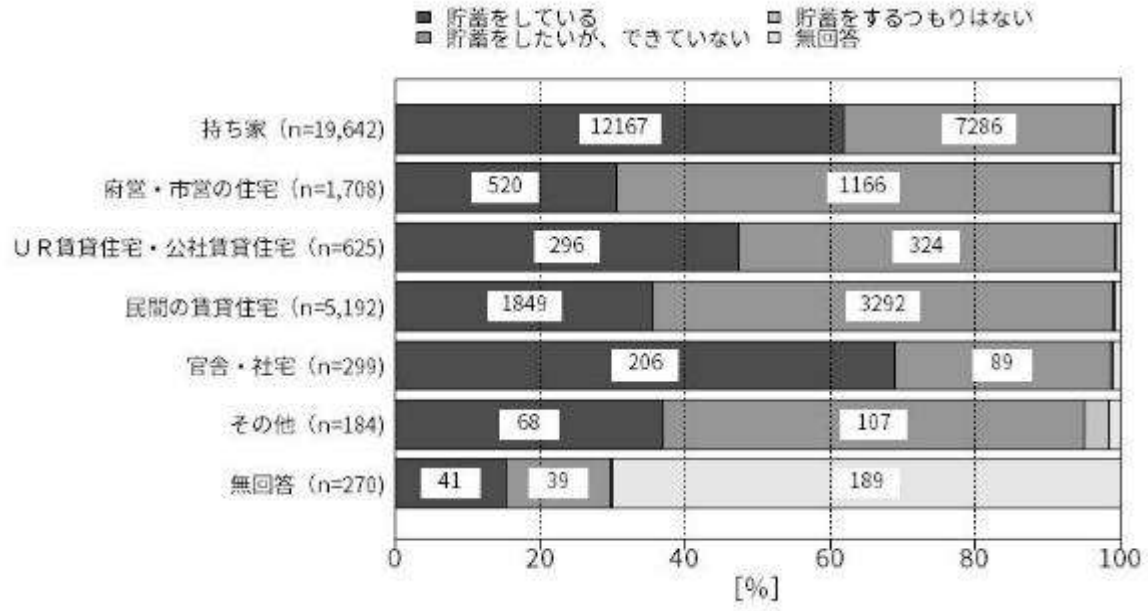


図 170. 住居別に見た、家計状況

「赤字であった」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 14.3%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 16.7%、民間の賃貸住宅に住む人では 27.1%であった。また、持ち家に住む人で「赤字であった」と回答した割合は 18.0%であった。

住居別に見た、子どものための貯蓄（保護者票　問 4 × 保護者票　問 6(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

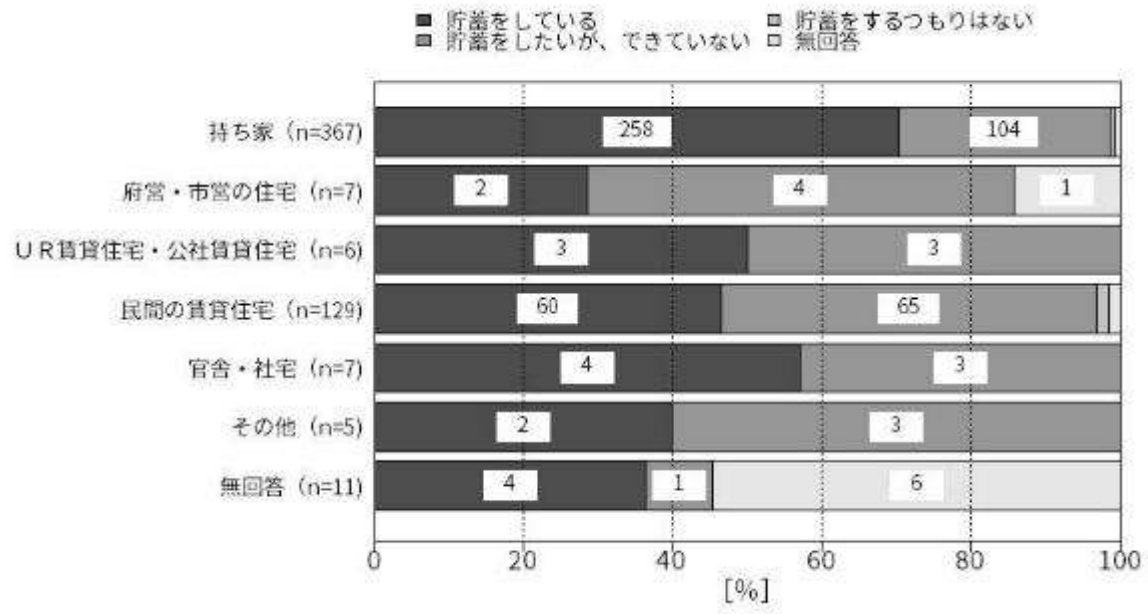


図 171. 住居別に見た、子どものための貯蓄

「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 57.1%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 50.0%、民間の賃貸住宅に住む人では 50.4%であった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 28.3%であった。

＜家庭状況に関する考察＞

社会保障給付の利用状況について、困窮度Ⅰ群における各制度の利用率を挙げると、児童手当91.2%（大阪市93.2%）、就学援助費56.1%（大阪市64.4%）、児童扶養手当62.5%（76.2%）生活保護制度12.3%（大阪市9.6%）である。

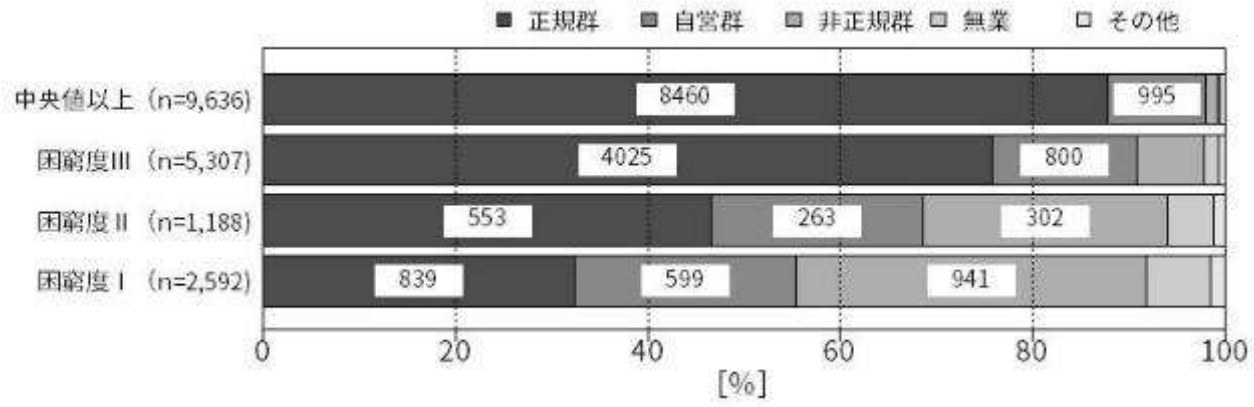
母親回答者を対象として、10代で初めて親となったと答えた割合は困窮度Ⅰ群では2.2%（大阪市7.8%）であった。10代群において「高等学校中途退学」と回答した割合が高くなっている。就労状況を見ると、10代群は他の群と比較して「正規群」の割合が低くなっている（大阪市の傾向と同様である）。また、他の群と比較して、自分の体や気持ちで気になると回答したことの数が多い。不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「ない」と回答した割合が高い。

「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（14.3%）、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅（16.7%）、民間の賃貸住宅（27.1%）、その他は80.0%で高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は18.0%であった。子供の将来のために「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（57.1%）、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅（50.0%）、民間の賃貸住宅（50.4%）で高かった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は28.3%であった。

３－２．雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

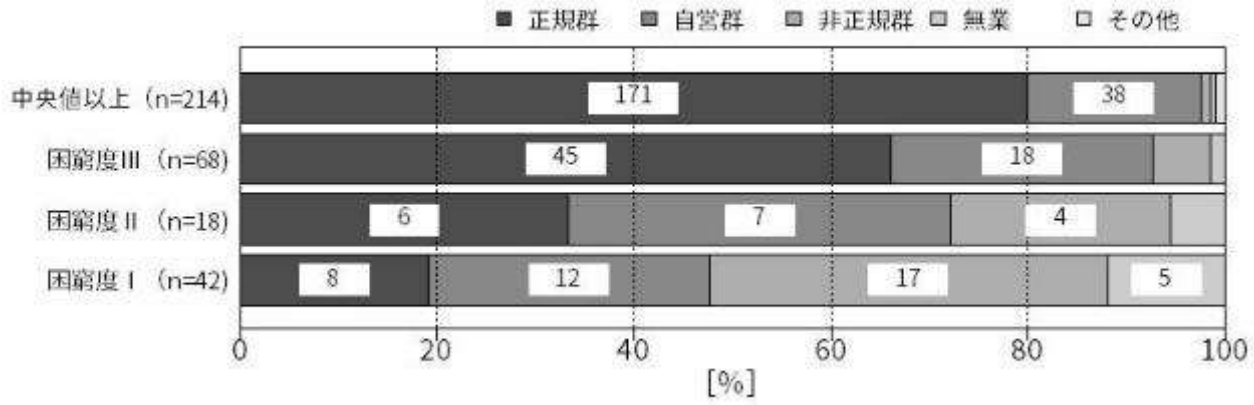


図 172．困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」・「非正規群」の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では「正規群」の割合が 19.0%、「非正規群」の割合が 40.5%となっていた。※就労形態は以下のように分類している。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれれば「正規群」（問９選択肢１）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれれば「自営群」（問９選択肢４）、

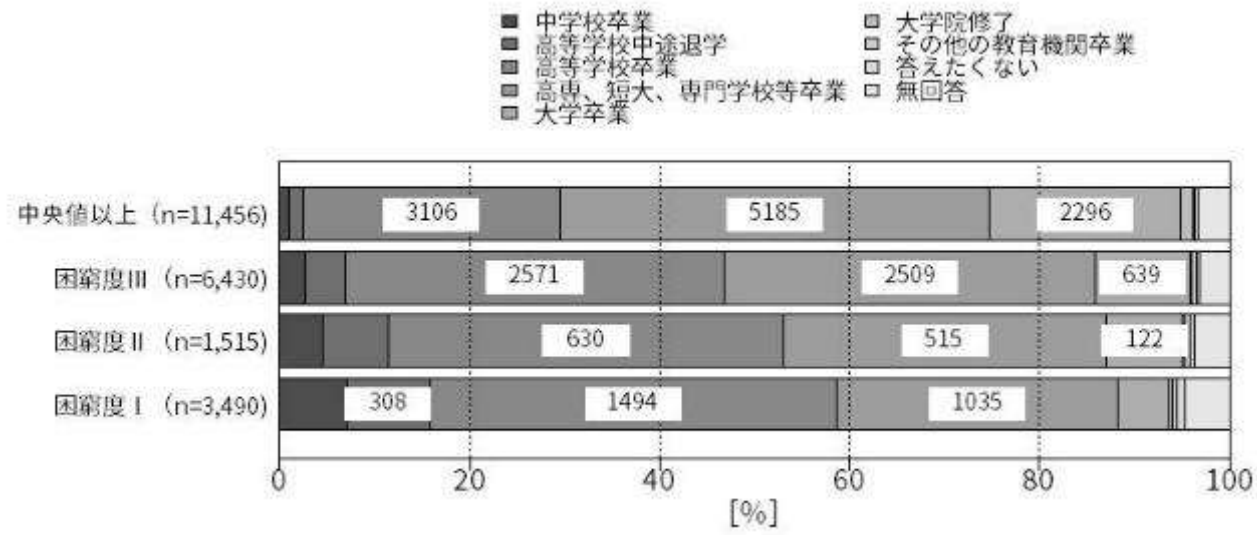
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれれば「非正規群」（問９選択肢２、３）、

上記以外で、誰も働いていなければ（問９選択肢６、７）無業。

上記以外がその他　となる。

困窮度別に見た、母親の最終学歴（保護者票　問 8）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

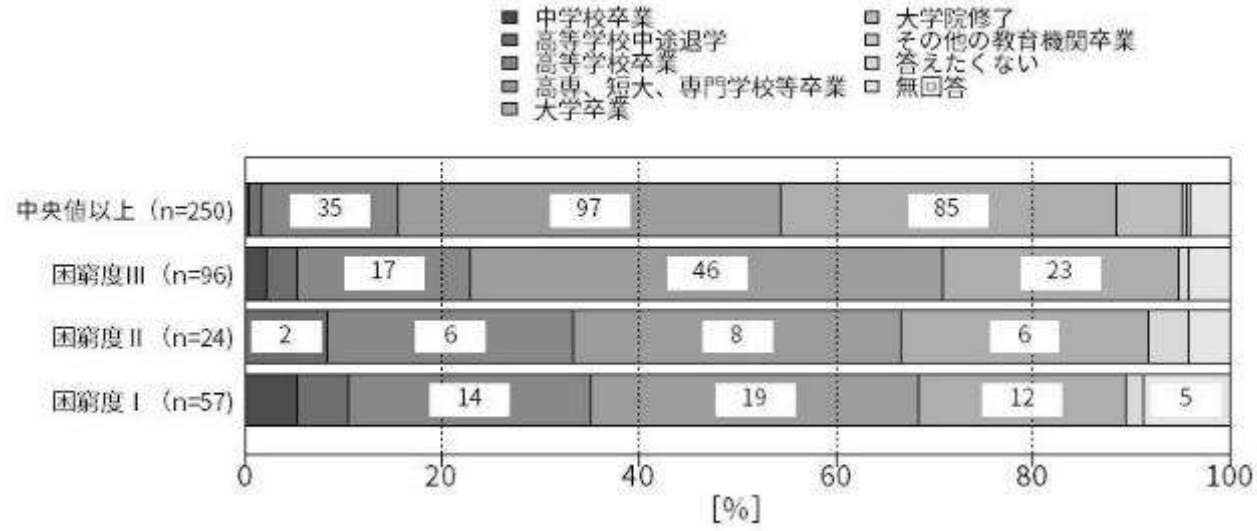
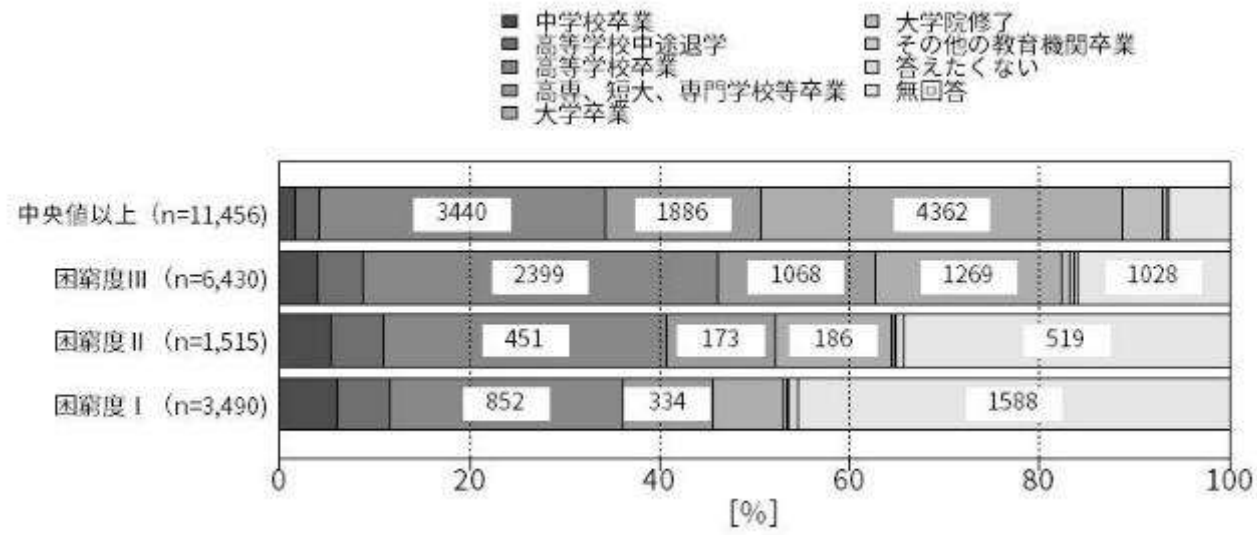


図 173. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度 I 群の「中学校卒業」は 5.3%、「高校学校中途退学」は 5.3%、「高等学校卒業」の割合が 24.6%であった。

困窮度別に見た、父親の最終学歴（保護者票　問 8）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

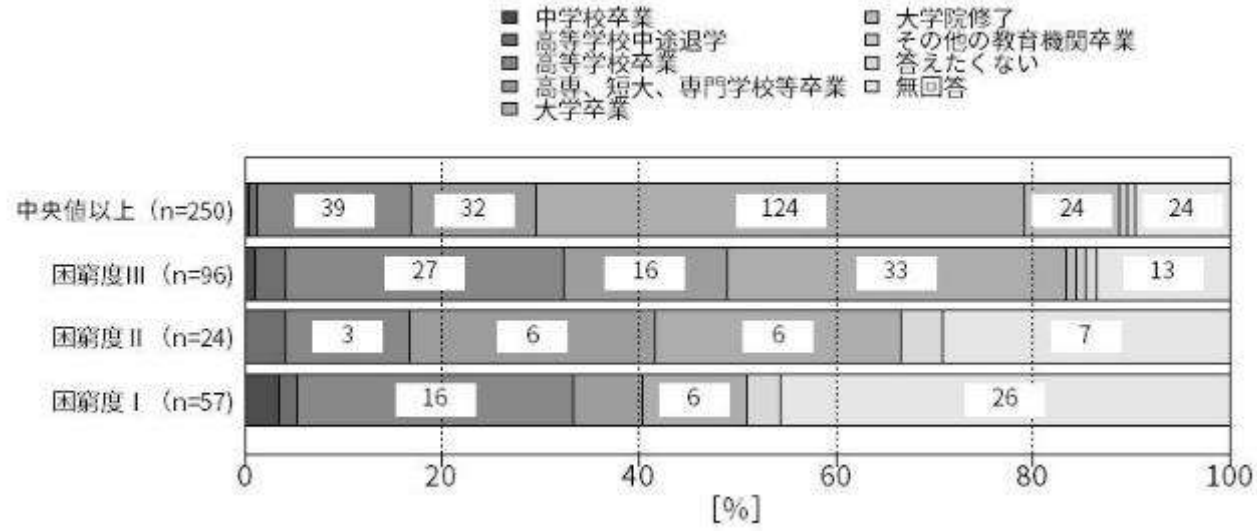
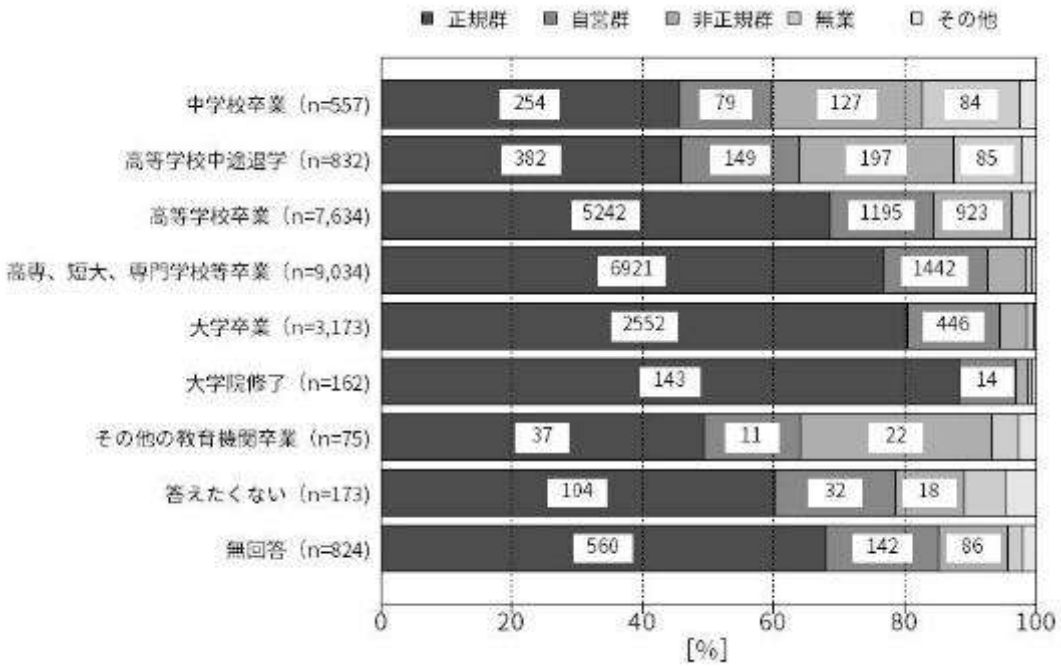


図 174. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度 I 群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ 3.5%、1.8%であった。また、困窮度 I 群では無回答の割合も高い（45.6%）。

母親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票　問 8 × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

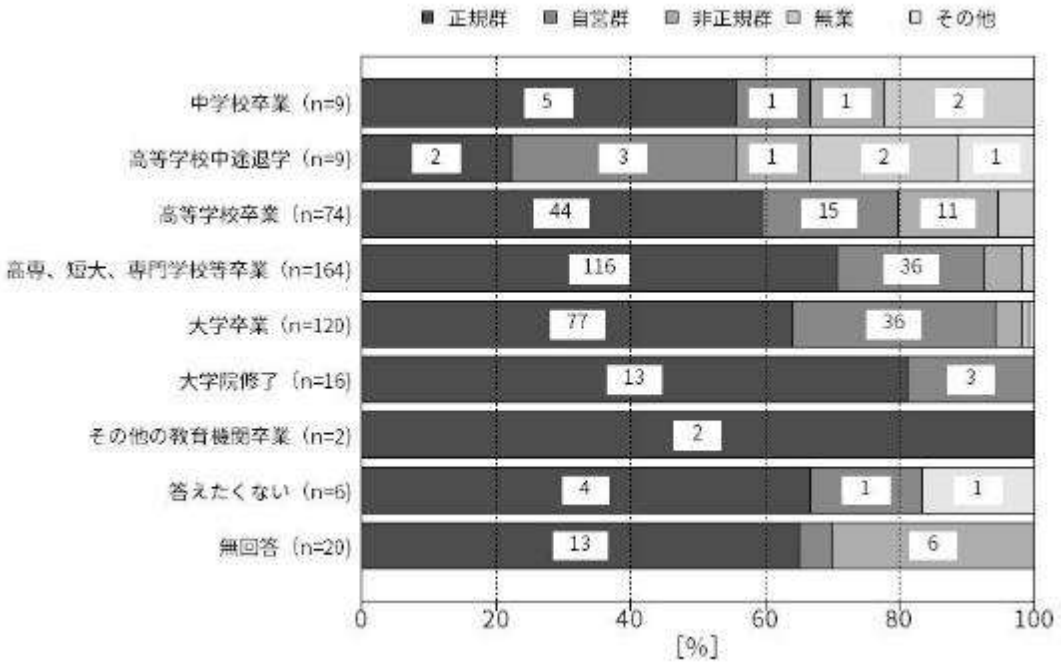
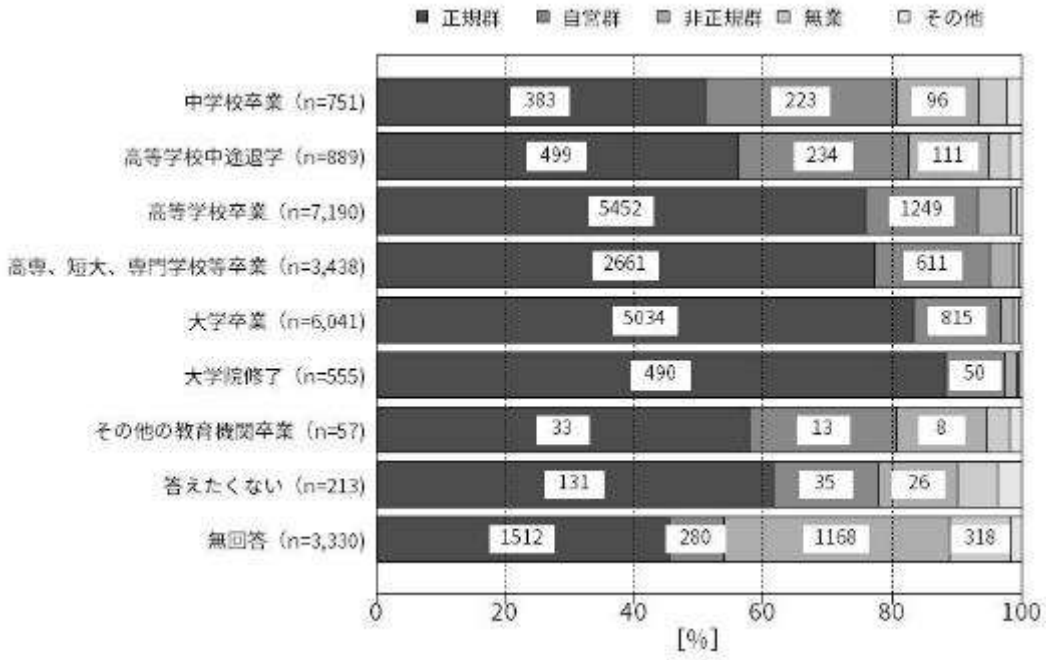


図 175. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

父親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票　問 8 × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

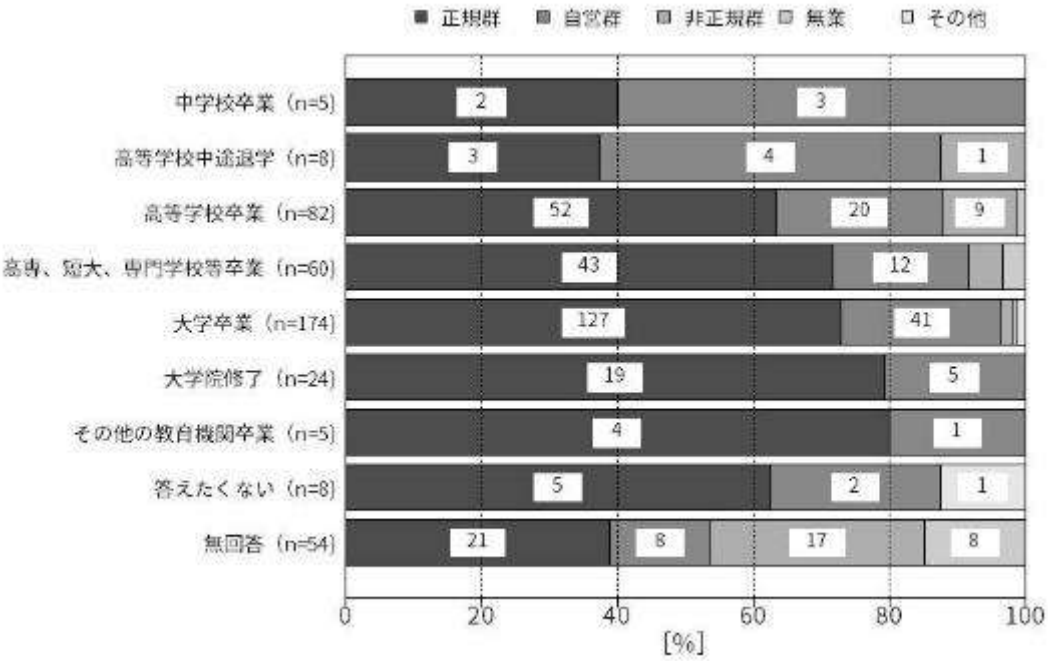
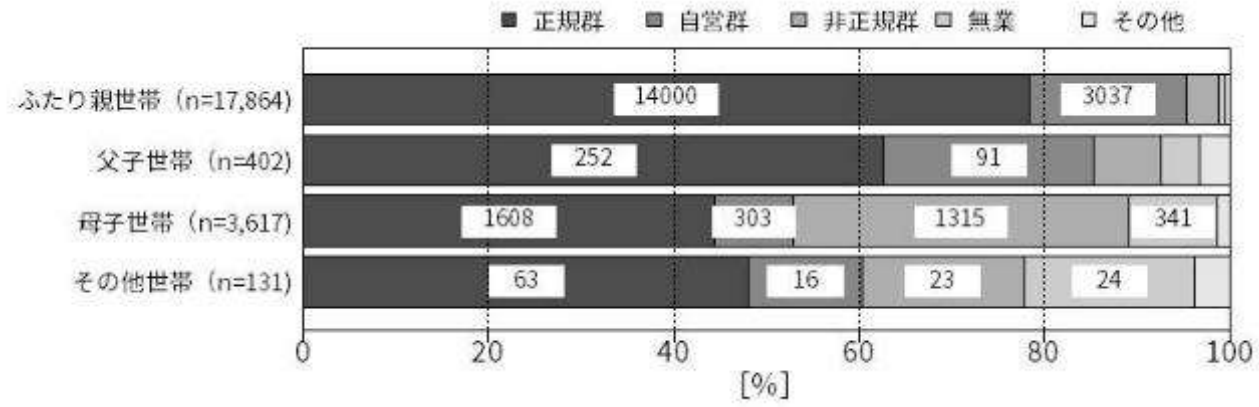


図 176. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「父親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

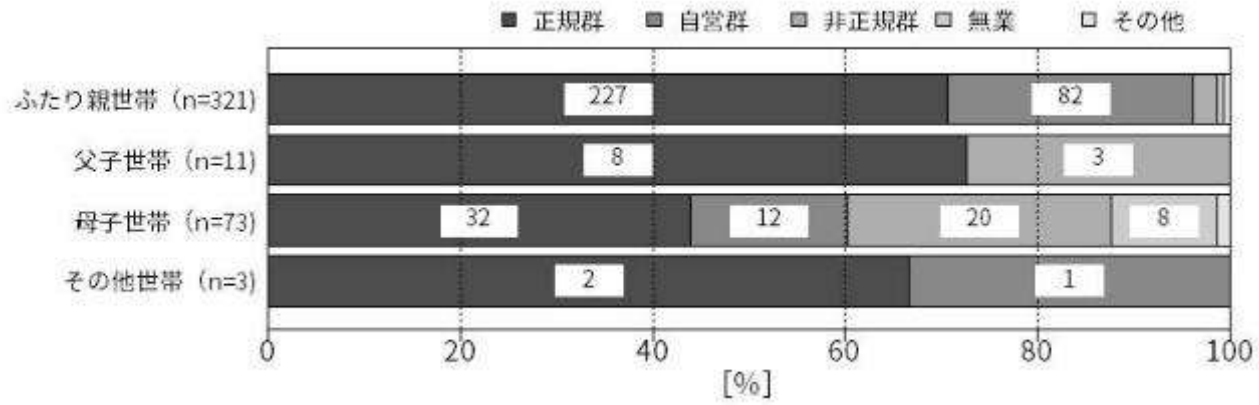
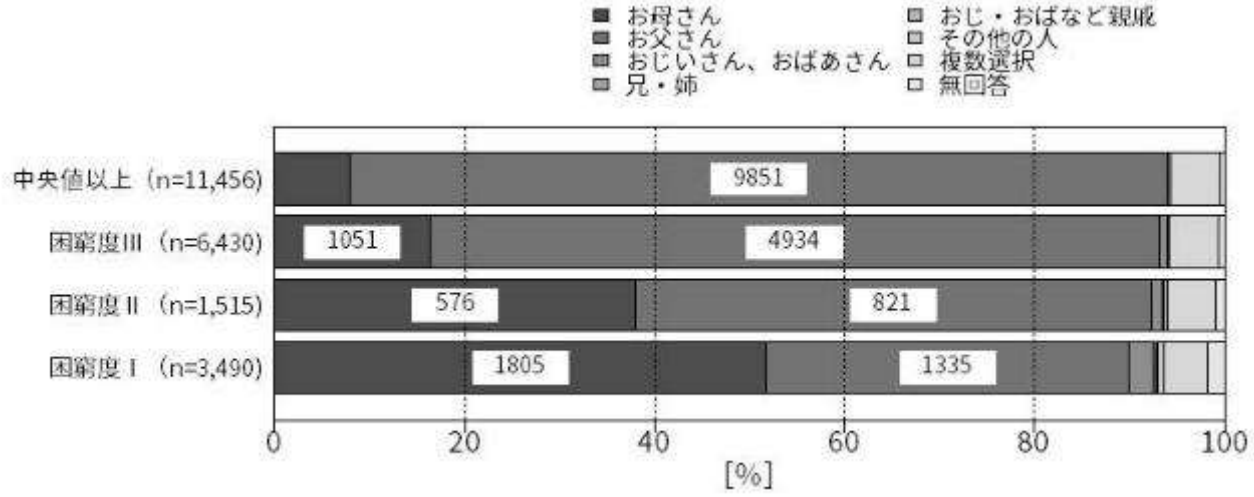


図 177. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が 70.7%であったが、「母子世帯」では 43.8%であった。「非正規群」は、「父子世帯」では 27.3%、「母子世帯」では 27.4%となっている。

困窮度別に見た、生計の支えとなる人（保護者票　問 30(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

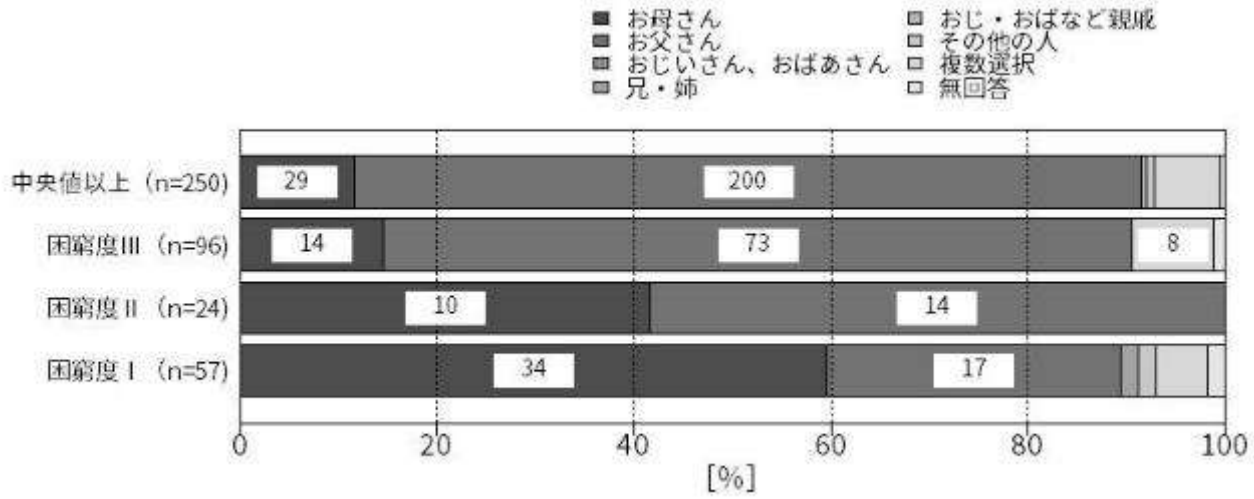
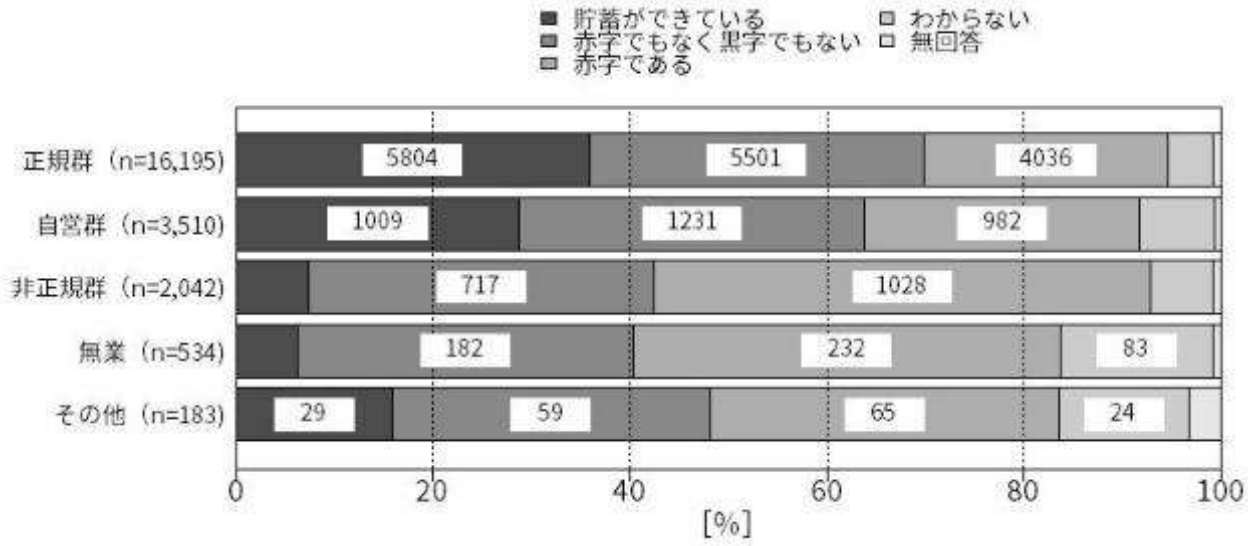


図 178. 困窮度別に見た、生計の支えとなる人

困窮度別に生計の支えとなる人を見ると、中央値以上群では「お父さん」という回答が 80.0%であった。困窮度が高まるにつれ、「お母さん」という回答が多くなる。困窮度Ⅱ群では「お母さん」という回答は 41.7%、困窮度Ⅰ群では 59.6%であった。

就労状況別に見た、家計状況（保護者票　問 6(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

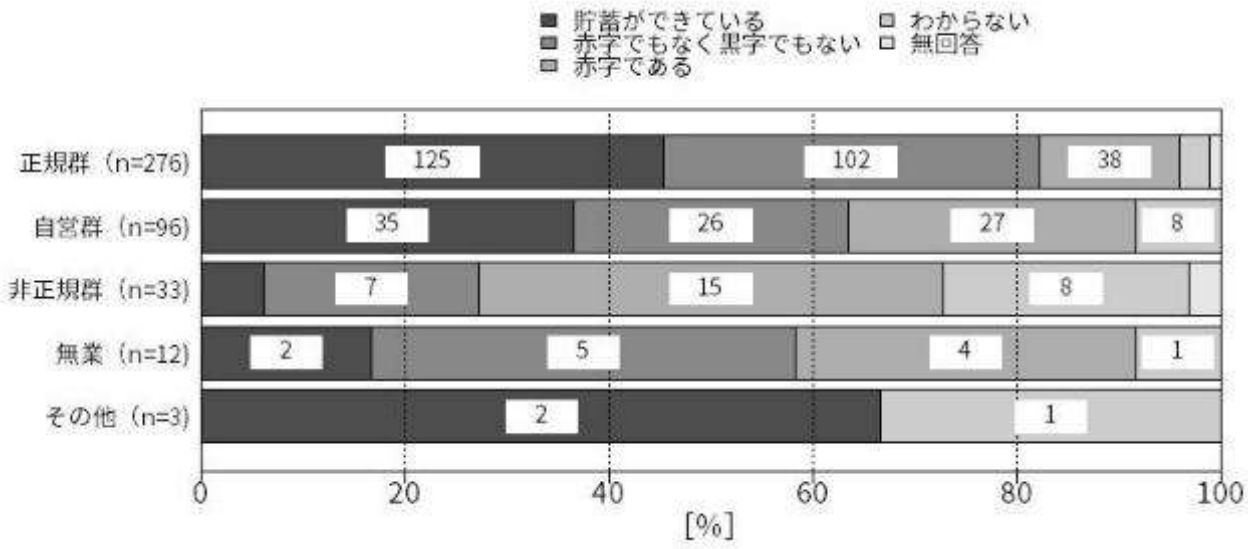


図 179. 就労状況別に見た、家計状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では貯蓄ができている割合がそれぞれ、45.3%、36.5%であった。「非正規群」では「赤字である」と回答した人が 45.5%であった。

＜雇用に関する考察＞

本調査では、雇用形態が、所得階層の分布に反映されていることが示されている。すなわち、中央値以上の群では、正規雇用が 79.9%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では、19.0%にとどまっている。なお、正規雇用であるにもかかわらず困窮度Ⅰの群になるという点は、ワーキングプアの問題や他の問題を示唆している可能性がある。

結果からは、困窮度が高い群ほど学歴が低い傾向がみられた。中卒、高校中退の割合をみると、父親の場合、中央値以上の群では中学卒が 0.4%、高校中退が 0.8%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では中学卒が 3.5%、高校中退は 1.8%、母親の場合、中央値以上の群では中学卒が 0.4%、高校中退が 1.2%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では中学卒、高校中退ともに 5.3%であった。なお、学歴が高い群ほど正規雇用の割合が高くなっていた。

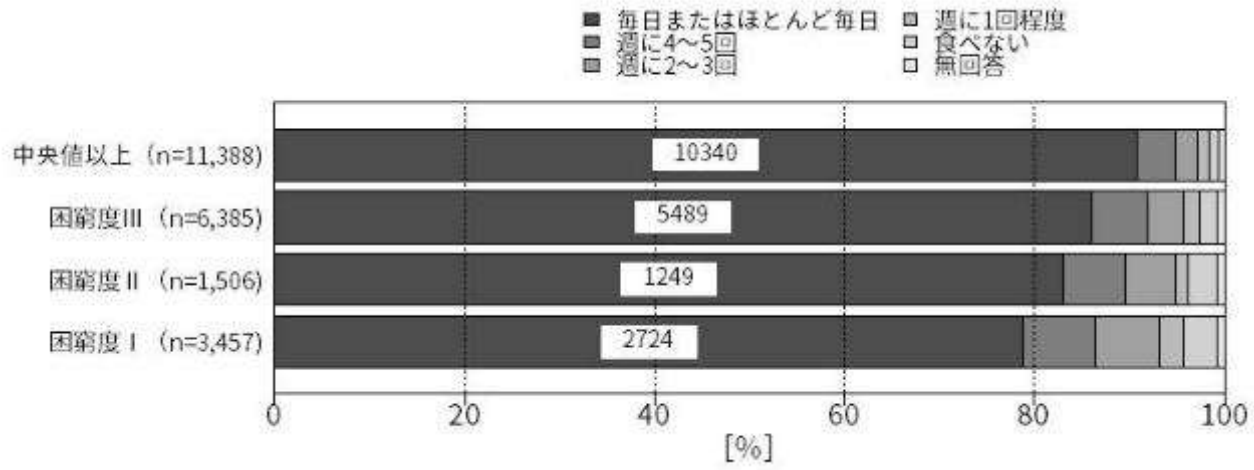
世帯構成と就労状況の関係を見ると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が高くなる。ふたり親世帯における非正規雇用の割合は 2.5%であったのに対し、母子世帯は 27.4%であった。困窮度Ⅰの群に属する世帯では、主たる生計維持者が母親である場合が多くみられた。

さらに、正規雇用の世帯の群の 45.3%では貯蓄ができると回答したのに対して、非正規雇用の群で貯蓄ができると回答した世帯は 6.1%にとどまり、45.5%が赤字と回答している。

３－３．健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票　問 5(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

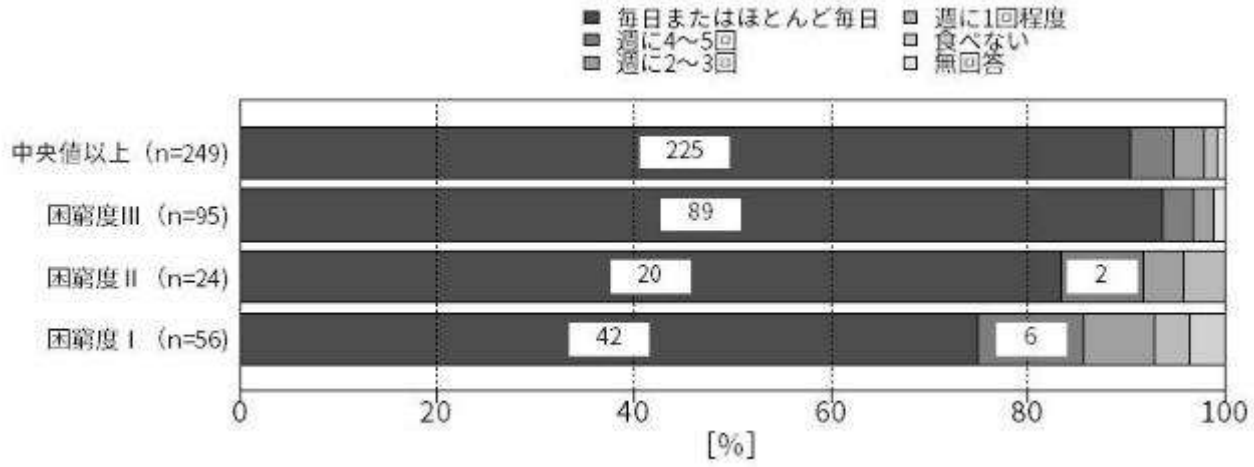
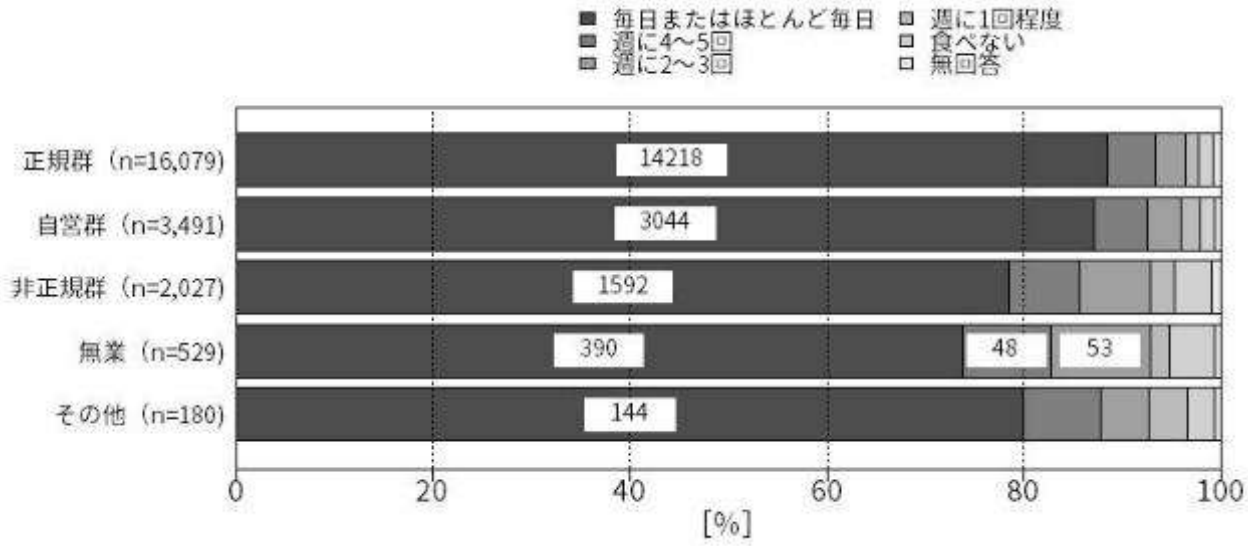


図 180．困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度 I 群では、75.0%が「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べると回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票　問 5(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

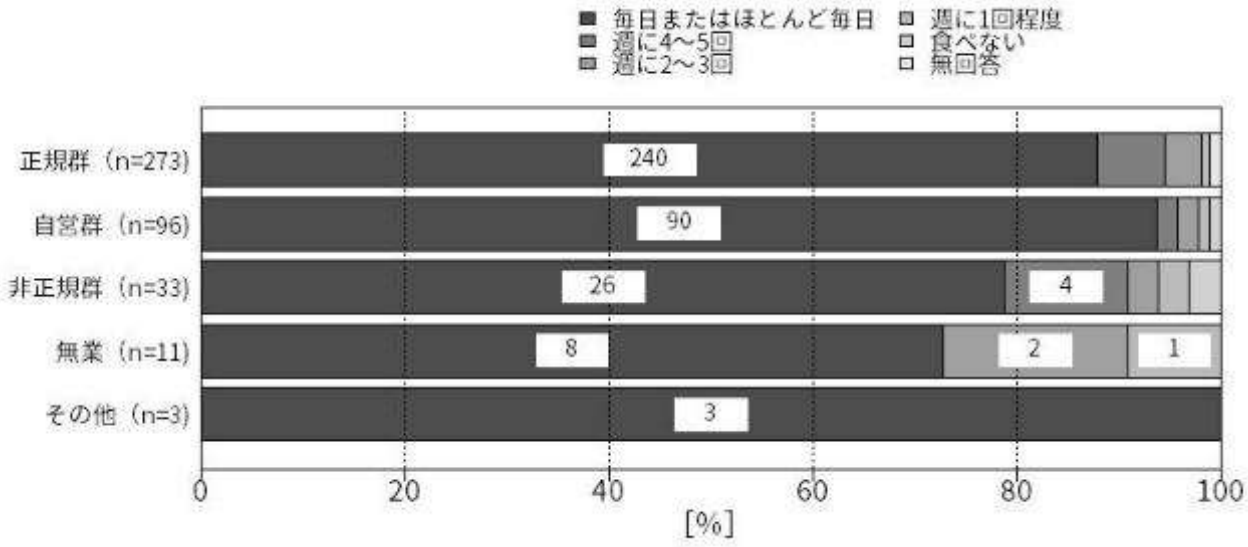


図 181. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」で 87.9%、「自営群」で 93.8%、「非正規群」で 78.8%、「無業」で 72.7%、「その他」で 100%であった。

朝食の頻度別に見た、 保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(1)）

＜大阪市 24 区＞

＜大阪市中央区＞

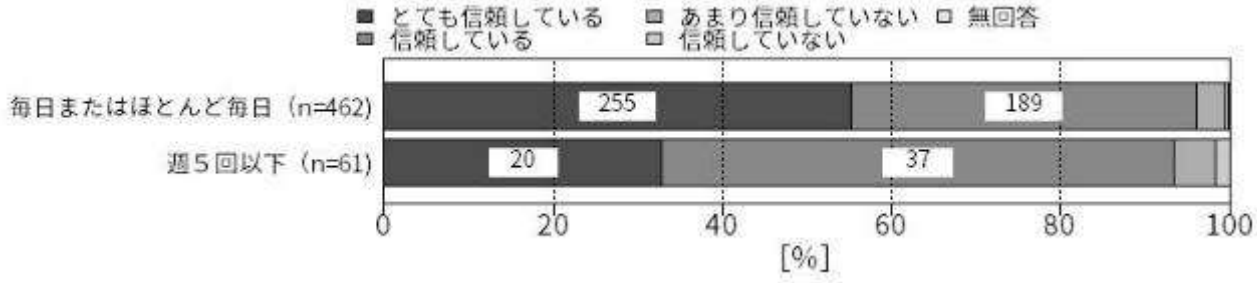
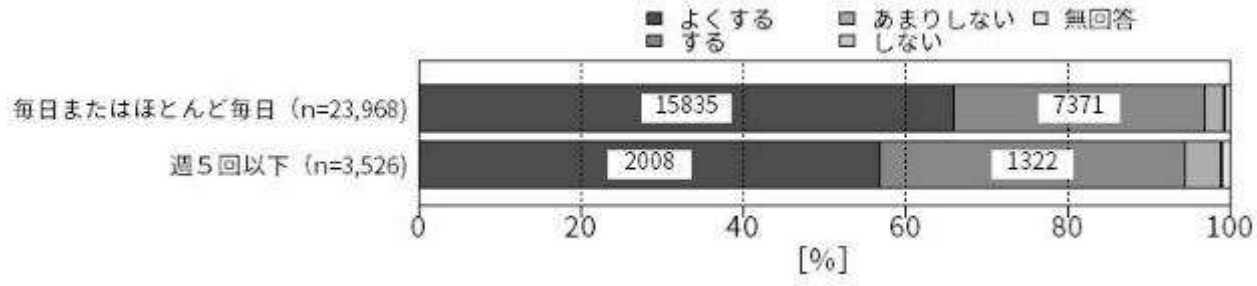


図 182. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が 55.2%であったのに対し、「週 5 回以下」では、「とても信頼している」と回答した人は 32.8%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

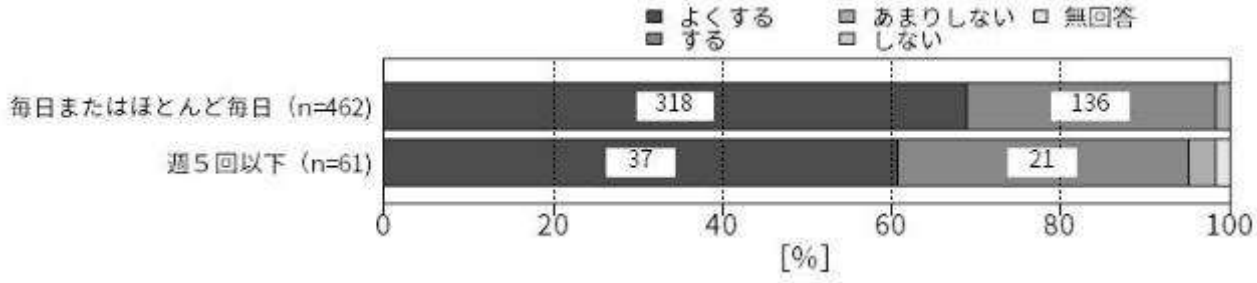
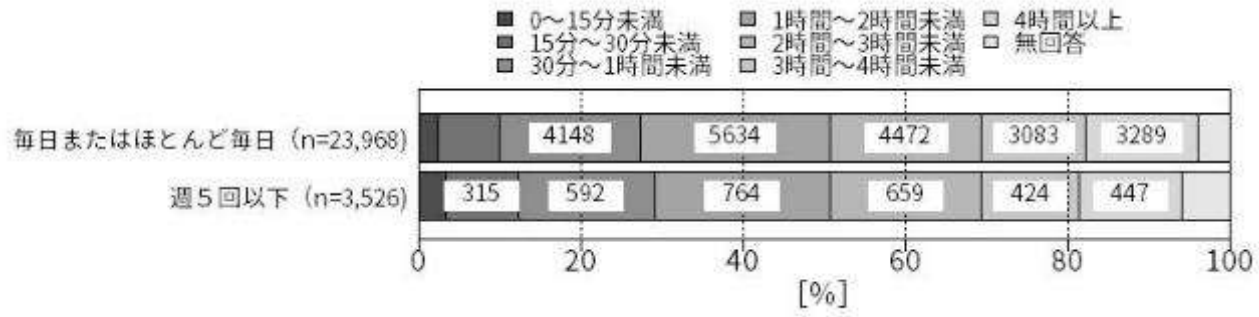


図 183. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が 68.8%であり、「週 5 回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は 60.7%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

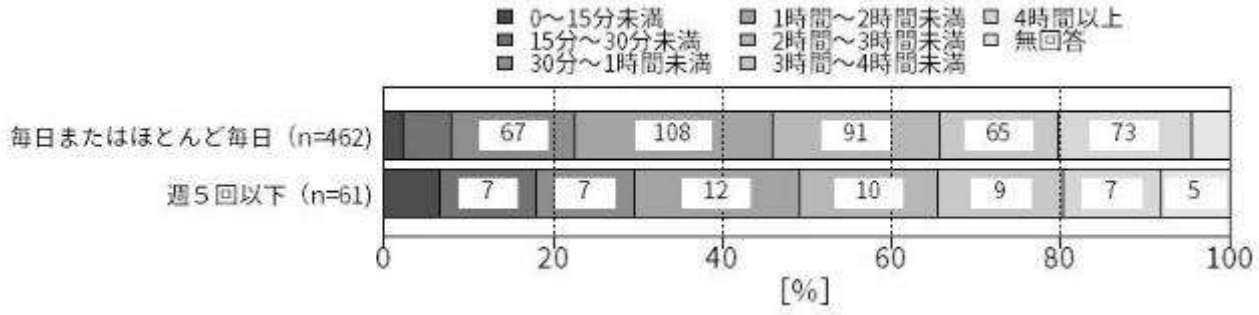
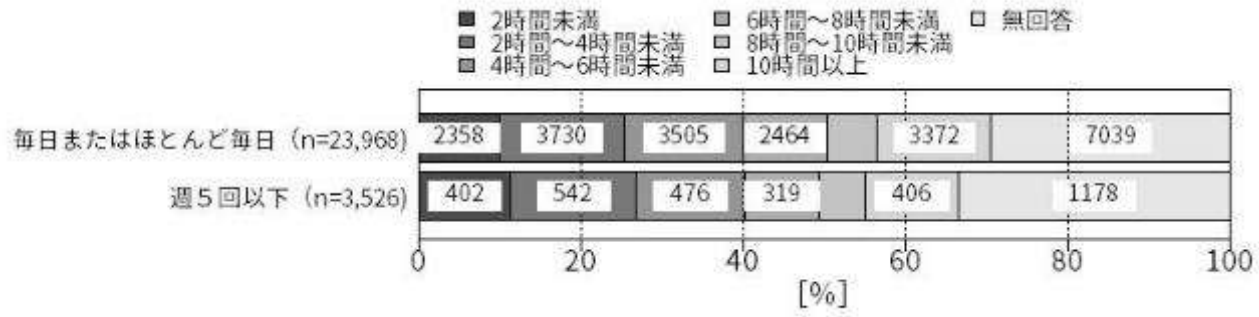


図 184. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（平日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが「週 5 回以下」の人よりも平日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

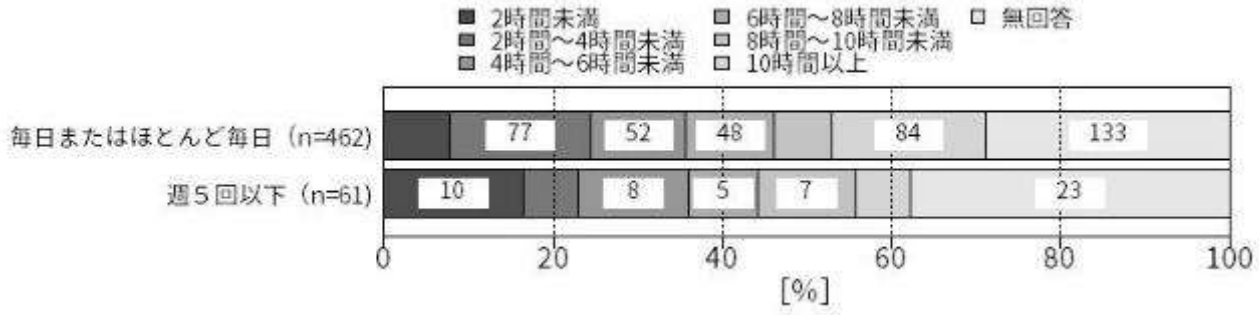
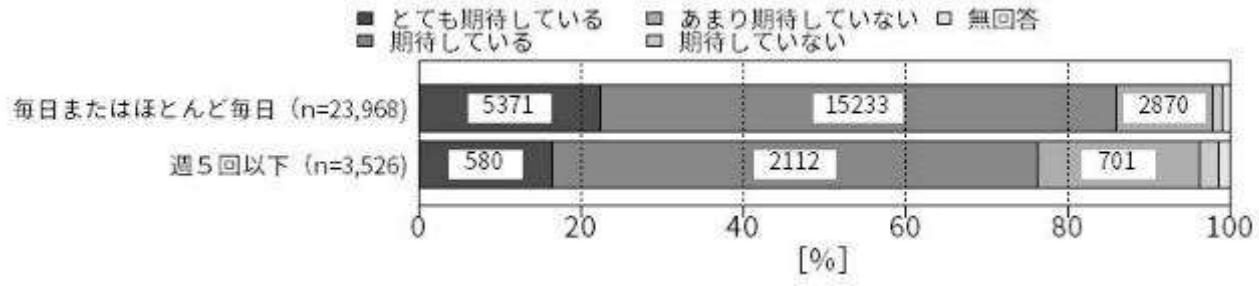


図 185. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（休日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが、「週 5 回以下」の人よりも休日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

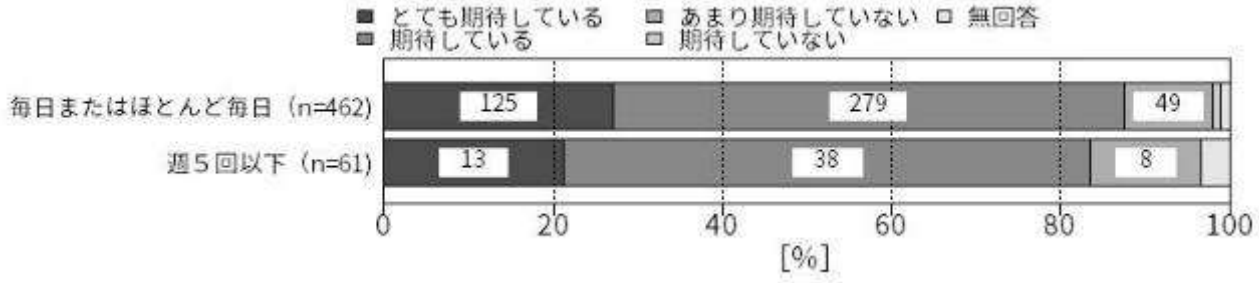


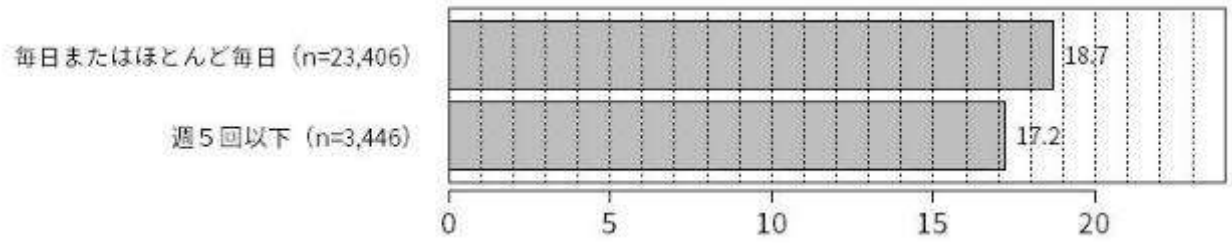
図 186. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、87.5%であったのに対して、「週 5 回以下」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて 83.6%であった。

朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー
（子ども票　問 5(1) × 子ども票　問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

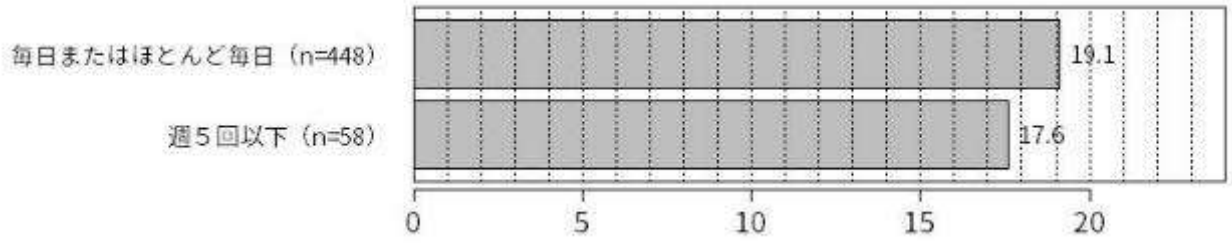
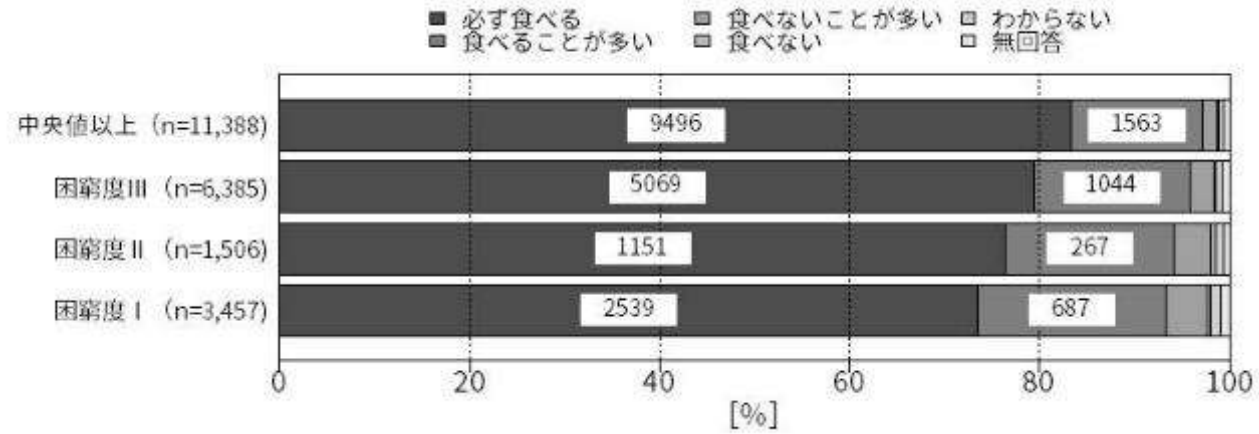


図 187. 朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、19.1 点であるのに対して、「週 5 回以下」では、17.6 点である。

困窮度別に見た、昼食の頻度（子ども票　問 7）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

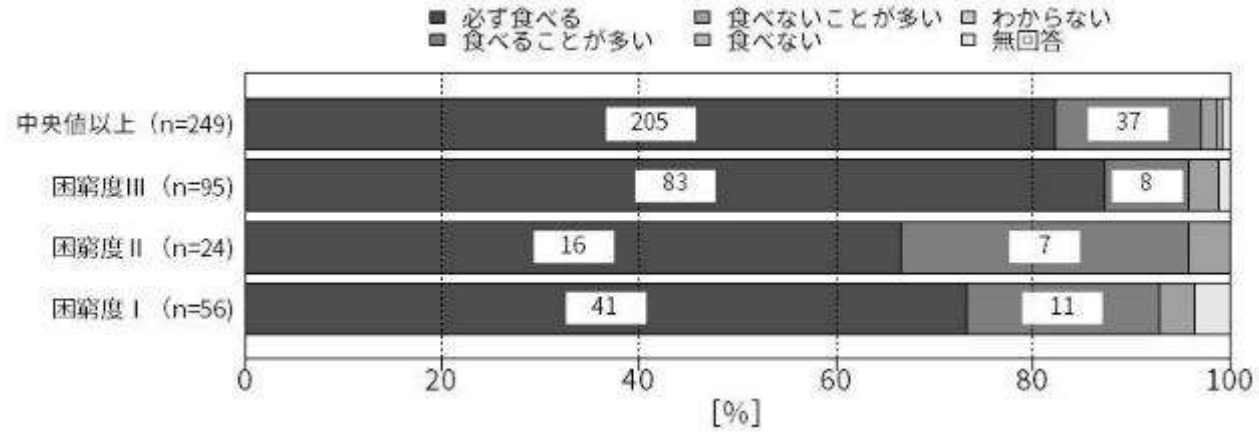
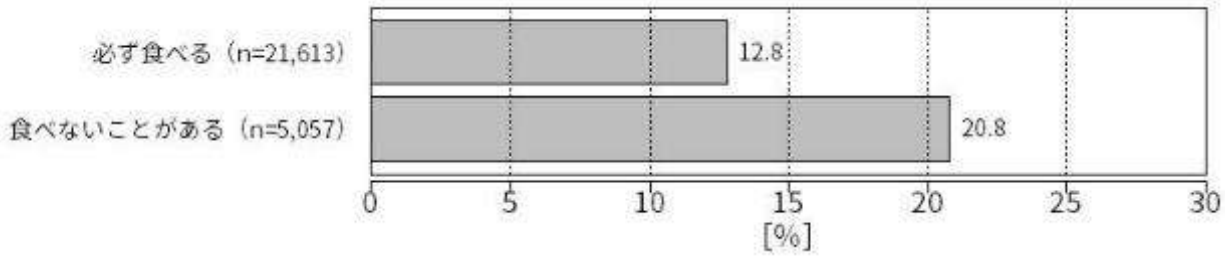


図 188.　困窮度別に見た、昼食の頻度

中央値以上群では、昼食を「必ず食べる」が 82.3%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 66.7%、困窮度Ⅰ群では 73.2%であった。

昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合（子ども票　問 7 × 子ども票　問 22）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市中央区＞

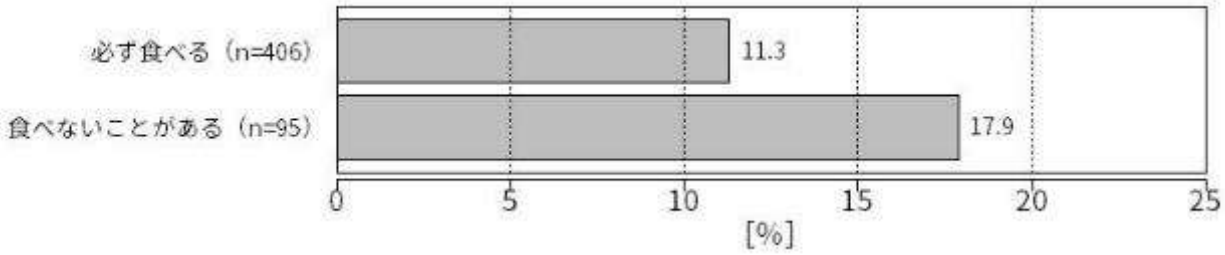


図 189. 昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合

昼食を食べない群では、「相談しない」と答えた割合が 17.9%であった。